

# 公益財団法人仙台市市民文化事業団 令和4年度事業報告書

\*新型コロナウイルス感染症の影響によるもの

## 1. 定款第4条第1号、第2号及び第3号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進)

| 番号 | 事業名  | 期日 | 会場 | 支出 | 収入 | 収入内訳・備考             |
|----|------|----|----|----|----|---------------------|
|    | 事業内容 |    |    |    |    | 入場者数等・備考<br>(単位:千円) |

### (1) 芸術文化振興事業

#### 1) 経常事業

##### ① 市民文化事業への支援事業

|   |   |    |   |        |        |   |
|---|---|----|---|--------|--------|---|
| 1 | <b>持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業／文化芸術の創造・発信・普及助成事業</b>   | 通年 | — | 42,714 | 42,714 | 市補助金 42,714   |
|   | 文化芸術への新型コロナウイルス感染症の影響が強く残る中、地域の文化芸術関係者の支援を目的に、以下の助成事業を実施した。実施にあたっては、地域の芸術家、市民団体、民間施設等から広く公募し、文化芸術の専門家や有識者からなる外部委員会による選考を経て、採択事業を決定した。<br><b>①持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業:</b> 次代を見据え、地域における文化芸術の創造力や発信力を高め、まちづくりや人々の暮らしの課題解決に寄与するため、高い独自性、公益性、波及力を持つ事業に対して助成した。<br><b>②文化芸術の創造・発信・普及助成事業:</b> 仙台の文化芸術の振興、郷土の歴史文化の継承及びその普及啓発の推進のため、優れた芸術家・団体等による文化芸術の創造・発信事業に対して助成した。 |    |   |        |        | ①<br>申請:71件<br>採択:17件<br><br>②<br>申請:180件<br>採択:55件 |
| 2 | <b>支援・助成・協力事業</b>   | 通年 | — | 15,461 | 15,461 | 市補助金 15,461   |
|   | 市内で活動する団体・個人が行う文化芸術事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力を行った。<br><b>①支援事業:</b> ウェブサイトに市民企画事業の告知を掲載する方法で広報サポートを実施した。<br><b>②助成事業:</b> 仙台市の文化芸術の振興と普及啓発及び郷土の歴史継承を推進するため、市民自らが行う公演・展示・上映等の経費の一部を助成した(「公演・展示活動助成事業」)。年2回公募。<br><b>③協力事業:</b> 特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設等での各種協力等を行った。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋等の協力を行った。                              |    |   |        |        | 支援:128件<br>助成:122件<br>協力:79件                        |
| 3 | <b>名義後援</b>   | 通年 | — | 0      | 0      |   |
|   | 団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行った。   |    |   |        |        | 119件  |

##### ② 公演事業

|   |  |           |                             |        |        |   |
|---|--|-----------|-----------------------------|--------|--------|---|
| 4 | <b>宝塚歌劇全国ツアー宮城公演</b>   | 10/28～30  | 名取市文化会館                     | 44,078 | 60,725 | 入場料等 59,880<br>協賛金 350<br>その他 495       |
|   | 東北の中核都市圏としての宝塚歌劇の拠点公演継続と、広域ニーズへの対応を前提とし、地域における舞台芸術振興への貢献を目的に開催した。これまで会場としていた仙台銀行ホールイズミティ21の大規模改修のための休館に伴い、県内で開催実績のある名取市文化会館を会場とし、公益財団法人名取市文化振興財団に共催の協力を得て実施した。   |           |                             |        |        | 入場者:7,235人                              |
| 5 | <b>仙台クラシックフェスティバル2022</b>  | 9/30～10/2 | 日立システムズホール<br>仙台、太白区文化センター他 | 68,279 | 67,590 | 市負担金 26,952<br>入場料 32,912<br>協賛金他 7,726 |
|   | 当財団設立20周年記念事業として、2006年(平成18年)、クラシック音楽に親しみを持ってもらい、より多くの方々にホールで聴く生演奏の魅力を届けることを目的に立ち上げた事業。新型コロナウイルス感染症対策も施したうえで、当年度に16回目を開催した。<br>当年度は仙台銀行ホール イズミティ21の休館に伴い、日立システムズホール仙台と太白区文化センターを会場に、3日間で68公演を実施したほか、仙台市内のより多くの地域を会場として、8月下旬～9月中旬に関連企画を開催した。ホールでの鑑賞に不安がある方も安心して楽しめるようルールやマナーを緩和した「せんくら・リラックス・コンサート」も実施した。<br><br>・ホール公演は、45分と60分の公演時間、チケットは一般の公演と比較し手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらった。<br>・好評のコンクール入賞者と仙台フィルハーモニー管弦楽団メンバー等とのアンサンブル、仙台・宮城出身アーティストの公演等、当財団ならではの企画をより多く盛り込むとともに、仙台で音楽を学ぶ学生の演奏機会を設ける等、クラシック音楽で街の賑わいを創出する仙台ならではのフェスティバルとした。<br>・無料で鑑賞できる地下鉄駅コンサートを設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとした。 |           |                             |        |        | 入場者:<br>のべ25,500人                       |

|  |                  |            |                   |       |       |            |
|--|------------------|------------|-------------------|-------|-------|------------|
| 6  | もりのみやこのふれあいコンサート | 12/26～1/31 | 日立システムズホール仙台      | 3,616 | 3,616 | 市補助金 3,616 |
| <p>障害のある方とご家族・同行者の方にオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に毎年12月の障害者週間に開催しているコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場希望者が増えており、仙台市立中学校の特別支援学級の生徒の招待も実施している。事前申込・無料で、仙台市及び仙台フィルと共催している。</p> <p>当年度は、仙台銀行ホール イズミティ21の休館に伴い、12/7に日立システムズホール仙台 シアターホールを会場に実施する予定にしていた有観客での公演を中止し、12/26から1/31までの期間でオーケストラの演奏を収録した動画の配信を行った*。</p> |                  |            |                   |       |       |            |
| 7  | 共催事業             | 通年         | 日立システムズホール<br>仙台他 | 1,078 | 0     | 20件        |
| <p>放送局・文化芸術団体等が行う公益性の高い文化事業を共催し、市民に優れた文化芸術の鑑賞機会を提供した。当年度は、仙台青葉能、人形浄瑠璃文楽、仙台オペラ協会第46回公演、第59回宮城県芸術祭(仙台市市民文化事業団賞の授与)、仙台短編文学賞等を共催した。</p>  |                  |            |                   |       |       |            |

### ③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施した。

|  |                 |    |                   |        |        |  |
|--|-----------------|----|-------------------|--------|--------|--|
| 8  | 劇場・音楽堂等機能強化推進事業 | 通年 | 日立システムズホール<br>仙台他 | 36,292 | 32,201 | 市負担金 30,359<br>県補助金 981<br>入場料等 756<br>寄付金収入 105 |
| <p>仙台市の文化芸術振興の中核施設として、育成・普及・創造の3つの社会的役割を果たす日立システムズホール仙台の発信事業。仙台市と公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団等と共催で実施した。</p> <p>&lt;普及啓発事業&gt;</p> <p>①<b>青少年のためのオーケストラ鑑賞会</b>(6/28～30、7/5～8、11/7～11):従来の市内小学5年生と中学1年生全員をホールに招待してのオーケストラ演奏会に代え、学校に訪問する形式のコンサートとして市内66校で実施した。仙台フィルのメンバーで編成された弦楽四重奏、木管五重奏による演奏で学年に応じたプログラムを提供した*。</p> <p>②<b>日立システムズホール仙台「パフォーマンスフェスティバル」</b>(3/20～21 全館):前夜祭(3/20)ではシアターホールを会場に在仙の和太鼓グループ「Atoa」、在仙劇団「劇団 短距離男道ミサイル」、「宮城県名取高等学校新体操部」(映像出演)によるステージを実施した。フェスティバルでは、宮城県合唱連盟による公演、民族歌舞団ほうねん座と旭ヶ丘森林太鼓の共演によるステージのほか、朗読劇、展示企画、公募出演者によるステージ等幅広い内容で開催した。</p> <p>③<b>ダンスのいりぐちプログラム「リトルダンス」「だれでもダンス」</b>(12/4～3/21 練習室・交流ホール):乳幼児親子・多世代が参加できるコミュニティダンスのワークショップを実施した(全5回)。最終回には、一時的に体験するだけでなく、主体的に作品づくりやコミュニケーションに参加する人材を育成し、「パフォーマンスフェスティバル」の一環で成果発表会を行った。</p> <p>④<b>せんくら・リラックス・コンサート</b>(8/28 交流ホール):ホールでの鑑賞に不安がある方も安心してクラシック音楽を楽しめるようルールやマナーを緩和したコンサートを開催した。</p> <p>&lt;公演事業&gt;</p> <p>⑤<b>名曲のちから「オーケストラ・スタンダード 2022年度シリーズ 全2回」</b>(11/30、12/16 コンサートホール):第28回の11月公演は、太田弦(指揮)、務川慧悟(ピアノ)を迎え「華麗なる「変奏曲」の魅力」と題した公演を、第29回は指揮・トークに茂木大輔を迎え、「続・いつか聴いた“懐かしの”あの音楽!」と題した公演を仙台フィルの演奏で開催した。</p> <p>⑥<b>仙台フィルの音楽物語コンサート</b>(1/15 コンサートホール):指揮者に松元宏康を迎えた名曲コンサートを、よしもと宮城県住みます芸人として活躍しているバクコメ秀作の司会で、オーケストラの音楽を楽しく体験できるコンサートとして開催した。</p> <p>⑦<b>大前光市コンテンポラリーダンス公演</b>(1/27、28 交流ホール):豊かな表現力と感性を持った義足のダンサー・大前光市と仙台在住の若手サクソプレイヤー・熊谷駿の共演による公演を開催した。</p> <p>&lt;人材養成事業&gt;</p> <p>⑧<b>演劇プロデュース公演</b>:中止</p> <p>⑨<b>仙台おどりラボ</b>(2/18～19 エッグホール、サンモール一番町):作曲家の大久保雅基を講師に迎えた「音編」、映像作家の飯名尚人を講師に迎えた「写真編」という構成で、舞踏家の今貂子による生のダンスを観賞しながら、それぞれの角度から身体表現について学ぶ講座を開催した。「からだメディア研究室」との共催。</p> <p>⑩<b>大前光市コンテンポラリーダンスワークショップ</b>(10/8、11/27 交流ホール):公演事業として展開する大前光市のコンテンポラリーダンス公演と連携したワークショップ。経験不問のコース、ある程度経験のある方を対象としたコースの2つに分けて実施した。</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <p><b>青年文化センター事業評価</b>(通年):青年文化センターの活性化に資する事業の評価を行い、事業運営を改善していくため、文化関係者等に事業評価モニターとして事業を鑑賞いただき、評価いただいた。</p> <p>普及啓発事業<br/>①鑑賞者:5,264人<br/>実施校:66校<br/>②来場者:1,847人<br/>参加団体:39団体<br/>(公演37、展示2)<br/>③参加者:33人<br/>④入場者:204人</p> <p>公演事業<br/>入場者:<br/>⑤11/30 600人<br/>12/16 489人<br/>⑥542人<br/>⑦182人</p> <p>人材養成事業<br/>参加者:<br/>⑨音編 14人<br/>写真編 18人<br/>⑩38人</p> |                 |    |                   |        |        |  |

|  |                |    |                 |       |       |   |
|--|----------------|----|-----------------|-------|-------|---|
| 9  | 青年文化センター活性化事業  | 通年 | 日立システムズホール仙台    | 554   | 125   | コピー料収入 125  |
| <p>地域資源等を活用しながら、文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を行った。実施にあたってはクラウドファンディング等による資金確保や他課との連携を継続しながら、安定的・効率的な運営に取り組んだ。</p> <p><b>①第2回 日立システムズホール仙台 パフォーマンスフェスティバル</b>(3/20～21 全館):前夜祭(3/20)ではシアターホールを会場に在仙の和太鼓グループ「Atoa.」、在仙劇団「劇団 短距離男道ミサイル」、「宮城県名取高等学校新体操部」(映像出演)によるステージを実施した。フェスティバルでは、宮城県合唱連盟による公演、民族歌舞団ほうねん座と旭ヶ丘森林太鼓の共演によるステージの他、朗読劇、展示企画、公募出演者によるステージ等幅広い内容で開催した。(舞台芸術振興課と協働で実施。再掲)</p> <p><b>②青年文化センター施設機能強化事業群</b><br/> <b>(1)地域連携事業</b>(通年)<br/> 旭ヶ丘地域のコミュニティ事業「わんぱく森<sup>2</sup>(もりもり)がっこ」や、旭ヶ丘市民センターとの協働の他、隣接する旭丘小学校の「まち探検」の探検先として協力する等、地域に根差した施設としての役割を果たした。当年度は、森<sup>2</sup>がっこ「食育講座」(12/3)、ホール見学会「あつまれ！旭ヶ丘キッズ 第3回『日立システムズホールに行こう』」(旭ヶ丘市民センターとの共催)(1/6)を実施した。また、前述のパフォーマンスフェスティバルでは、地域で活動している「旭ヶ丘森林太鼓」と、プロの民俗芸能集団である「民族歌舞団ほうねん座」のコラボレーションによるスペシャルステージを実施し、地域活動の充実に貢献した。</p> <p><b>(2)フリースペース活用事業</b>(通年)<br/> 展示:1階エントランスにて以下の展示事業を実施した。また、仙台フィルの創立50周年記念活動に協力し、展示ブースを設けた。<br/> ・「せんくら2022写真展」(8/25～10/2)<br/> ・「踊らないダンスワークショップ2&lt;&lt;写真編&gt;&gt;」(3/21～5/7)<br/> 実演:パフォーマンスフェスティバルでは、1階エントランスにステージをつくり、公募出演者によるパフォーマンス等の企画を実施した。<br/> 知の場所づくり(サラダ文庫):当財団関係の書籍、雑誌等の文化情報を配架した移動ラックをエントランスホールに設置し、来館者に自由閲覧してもらった。令和元年度から継続。</p> <p><b>(3)諸室活用(市民参加・体験・交流)事業</b>(2/17～2/26 ギャラリー)<br/> 3階ギャラリーを会場にした「仙台レコード展」を開催し、収蔵レコードのジャケット展示のほか、来場者からのリクエストの受付やレコードの操作体験を実施した。</p> <p><b>(4)ホール活用事業</b>(12/13 コンサートホール)<br/> 仙台市消防局協力のもと、コンサートホールでの公演中に地震が発生したという想定で、当日ご来場のお客様にも館外へ避難していただく、参加型の「避難訓練コンサート」を初めて開催した。</p> <p><b>(5)共通経費</b><br/> <b>③コピーサービス事業</b>(通年)<br/> 施設利用者向けのサービスを継続して実施した。</p> |                |    |                 |       |       | <p>①は8.劇場・音楽堂等機能強化推進事業に予算計上<br/> ③は収益事業</p> <p>入場者等:<br/> ①1,847人(再掲)<br/> ②<br/> (1)食育講座 53人<br/> ホール見学会 8人<br/> 森林太鼓 ①を含む<br/> (3)2,583人<br/> (4)180人</p> |
| 10   | 泉文化創造センター活性化事業 | 通年 | 日立システムズホール 仙台他  | 2,585 | 1,003 | 入場料 503<br>協賛金 500  |
| <p>大規模改修のため施設は休館中であるが、芸術鑑賞の機会が減少する泉エリアを中心としたアウトリーチ公演等を行った。</p> <p><b>①市民協働によるロビーイベント</b>:これまで大ホールホワイエを会場に開催してきた企画の枠を、泉エリアを中心とした学校、施設等で実施した。施設休館のため芸術鑑賞機会が減少する同エリアの子どもたちを主な対象として芸術鑑賞の機会を提供した。出演は泉区在住のチェロ奏者吉岡知広、ピアニストの加藤直子。<br/> ・将監市民センター 多目的ホール(11/5)<br/> ・仙台市立高森東小学校体育館(11/14)<br/> ・仙台銀行本店ビル9階講堂(11/24)<br/> ・仙台市立七北田小学校 体育館(12/16)<br/> ・仙台市立長命ヶ丘小学校 体育館(12/19)<br/> ・子育てふれあいプラザ のびすく泉中央 3階乳幼児ひろば(1/5)<br/> ・子育てふれあいプラザ のびすく泉中央 4階ホール(1/5)</p> <p><b>②コンサートシリーズ「イズミノオト 第8回 リヒャルト・シュトラウス 変容ノ前夜」</b>(3/5 日立システムズホール仙台シアターホール):クラシック音楽鑑賞の楽しみ方を掘り下げて伝えていくことを目的に、仙台市泉区出身・在住の音楽家による音楽監修で良質なコンサートを開催した。<br/> 出演:吉岡知広(チェロ/コーディネーター)、関朋岳、川又明日香(ヴァイオリン)、村松龍、今川結(ヴィオラ)、荒井結(チェロ)、名和俊(コントラバス)、北端祥人(ピアノ)</p>   |                |    |                 |       |       | <p>入場者:<br/> ①633人<br/> ②250人</p>   |
| <p><b>④ミュージアム活性化事業</b><br/> ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図った。</p>   |                |    |                 |       |       |   |
| 11   | 猿舞座のさるまわし      | 中止 | 榴岡公園<br>歴史民俗資料館 | 0     | 0     |   |
| <p>榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の13回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気です。伝統芸に親しむ予定で開催を模索したが、中止した*。</p>  |                |    |                 |       |       |   |

|  |                                   |            |                 |       |     |                    |
|--|-----------------------------------|------------|-----------------|-------|-----|--------------------|
| 12   | れきみん秋祭り2022                       | 10/22、11/3 | 榴岡公園<br>歴史民俗資料館 | 785   | 151 | 助成金 150<br>刊行物販売 1 |
| 東北地方に伝わる伝統芸能や職人の技術といった「無形」の民俗文化、芸術文化を榴岡公園と歴史民俗資料館の館内を会場として紹介した。  |                                   |            |                 |       |     |                    |
| 13   | 歴史的な生活体験教室                        | 5月～11月     | 富沢遺跡保存館他        | 371   | 133 | 古代米販売 94<br>参加料 39 |
| 当館の敷地や隣接地を利用して、米づくりなど富沢地区周辺で行われてきた昔の生活要素を体験する教室を行った。参加家族と協働して作業することを主眼に置き、歴史体験的活動を通して親子の絆を深めるとともに、富沢遺跡の特徴や地域資源を生かし、歴史生活体験型事業として実施した。参加者は小学3年生以上とその保護者で、5月～11月の計7回(田植え・稲刈り・収穫祭等)の作業及び行事を行った。また、収穫物を利用して、一般来館者を対象とした工作体験「正月飾りづくり」も行った。収穫した古代米は参加者に配布し、余剰米はグッズとして当館で販売している。古代米の成長の様子等の情報発信も行った。   |                                   |            |                 |       |     |                    |
| 14   | 地域交流促進事業                          | 通年         | 富沢遺跡保存館         | 184   | 0   |                    |
| 当館の森(地下展示・野外展示)の価値の共有や保全への共感を得ることを目的に、コンサートと地域に根ざしたイベントを行った。これまで参加者から好評を頂いた閉館時間帯の施設・野外展示利用等、指定管理業務では実施が困難な内容を自主財源事業として実施した。地域の方々が参加しやすいだけでなく、地域の人材や組織が活躍するイベントを目指し、①「森の響き2022 コンサート編」(10/29)では仙台三桜高等学校、②「森の響き2022 たき火と星編」(11/23)では長町学びネット等、学校・地域団体との結びつきの強化を図りながら行った。  |                                   |            |                 |       |     |                    |
| 15   | 歴史・芸術融合事業<br>「ミュージアム・シアター“狩人登場！”」 | 通年         | 富沢遺跡保存館他        | 1,658 | 0   |                    |
| 市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団 短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行った。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指した。これまでの活動に加え、学校利用向けや演劇要素の強い演出も試み、事業の可能性を広げた。先進事例の調査、有識者からの指導等を得ながら、旧石器時代の生活について考察を深め、検討を行った。  |                                   |            |                 |       |     |                    |
| 16   | 映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」             | 通年         | 富沢遺跡保存館         | 523   | 0   |                    |
| 地域に根ざした博物館として、地域情報を記録・収集・発信することを目的とした事業。当年度は①オンラインイベント(8/23)や②仙台市在住の映像クリエイターによる写真撮影・動画編集ワークショップ(8/25、9/25)の実施を通じて、より地域に根ざしたテーマでの記録撮影や、映像記録の収集を行い、地域住民の「アーカイブ」事業への関心を高め、市民とともに地域アーカイブスを築いていくことを目指した。また、狩人のVR動画制作にも取り組んだ。  |                                   |            |                 |       |     |                    |
| 17   | 学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」              | 通年         | 縄文の森広場          | 68    | 0   |                    |
| 近隣学校や地域との結びつきを深め、より地域に根ざした施設になることを目的とした事業。平成28年度から「ドッキーをつくらう」と題し、山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、お菓子づくり考古学者下島綾美氏を招いて土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて山田上ノ台遺跡及び縄文文化について学ぶイベントを近隣の上野山児童館と連携して実施してきた。また、オリジナルメニューの開発として、3次元計測によるミニチュアの土器型を製作し、縄文土器チョコづくりを実施した。当年度も引き続き、「ドッキー」づくりを行い、楽しみながら縄文文化に触れられるイベントを行った。   |                                   |            |                 |       |     |                    |
| 18   | 展示手法の開発・導入                        | 通年         | 縄文の森広場          | 1,158 | 300 | 助成金 300            |
| 新たな展示手法の開発と導入を図るための事業として令和2年度から開始した。事業の柱は「リビングヒストリー」と「3次元計測」である。リビングヒストリーでは、石器製作実験セミナーを2回を開催した。3次元計測では、当年度も引き続きデータの蓄積を行うとともに、国際ミニシンポジウムを実施し、3Dの文化財活用について議論した。<br>①「石器製作実験セミナー―尖頭器編―」(7/17):キム・オンジュン(東北大学大学院)<br>②「石器製作実験セミナー―韓国の細石刃編―」(10/23):チョ・ミョングン(韓国・PAL文化財センター)<br>③「国際ミニシンポジウム「3D技術と文化財、博物館」」(3/11):野口淳(金沢大学古代文明・文化資源学研究所)、鹿納晴尚(東北大学総合学術博物館)、パク・ヨンジェ(韓国・コサリ協同組合)、シン・ドンウク(韓国・漢陽大学文化財研究所) |                                   |            |                 |       |     |                    |
| 来場者:1,587人<br>参加者:<br>親子20組58人<br>参加者:<br>①61人<br>②40人<br>実施回数:25回<br>参加者:<br>①9人<br>②9人<br>参加者:13人<br>参加者:<br>①48人<br>②19人<br>③49人  |                                   |            |                 |       |     |                    |

|    |                     |    |          |       |     |   |                       |
|----|---------------------|----|----------|-------|-----|---|-----------------------|
| 19 | せんだいメディアテーク開館20周年事業 | 通年 | メディアテーク  | 1,095 | 0   | 開館20周年を機に、同時代性ある新たなメディアテーク像を打ち出していくために、現行の課題を乗り越え、次の10年の方向性を示す機会とした。<br>①記念誌発行(通年):『つくる(公共) 50のコンセプト』(岩波書店)を全国書店に流通する書籍として出版した。<br>②ラウンジ展示「せんだいメディアテーク・クロノロジー2001-2021」(通年 7階ラウンジ *令和2年度より継続):これまでの歩みを、年表で紹介した。   | ②入場者:<br>93,204人      |
| 20 | コミュニティ・アーカイブ・ラボラトリー | 通年 | メディアテーク  | 401   | 0   | 市民による草の根的なアーカイブ活動を示す「コミュニティ・アーカイブ」の理念・実践の普及啓発を進めるため、市民や専門家とともに、実践的あるいは研究的視点等の様々な角度で分析、調査研究を行い、その成果をウェブサイトで発表した。   |                       |
| 21 | smtホスピタリティ向上事業      | 通年 | メディアテーク  | 296   | 0   | 施設活用の新たなモデルケース(手法)とツールの開発、実践として、次世代や親子層の日常的な利用における課題についての調査や、定禅寺通活性化に寄与する取組についての企画・開発を行った。<br>①定禅寺通りまちづくり活性化支援:「定禅寺リビングストリート(クラフトマルシェ)」(5/28、29)に協力し、周辺商店街や町内会とともに憩いの場作りを行った。<br>②施設活用事業:1階オープンスクエアで仙台七夕まつり関連アーカイブの写真をスライドショーにして上映した。   | 入場者:<br>②1,000人       |
| 22 | ミュージアムグッズ開発・販売事業    | 通年 | 各ミュージアム他 | 444   | 959 | ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特長や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行った。<br>①歴史民俗資料館グッズ:昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、大正14年と昭和4年と昭和8年の仙台の商店記載地図、大正15年仙台地図、明治13年宮城県仙台全図、明治17年仙台市街絵入明細全図、仙台北下絵図、昭和26年map of Sendaiの継続販売と、新規復刻地図として昭和3年「仙台市要覧」の地図を制作販売した。(支出199千円、収入224千円)<br>②富沢遺跡保存館グッズ:氷河期の森で採集できるハンノキの枝やチョウセンゴヨウの実等で、来館の思い出となるグッズを製作し販売する。また、ボランティア会が製作した編布シリーズや松ぼっくりのリースの販売を継続した。(支出 62千円、収入 85千円)<br>③縄文の森広場グッズ:縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの製作と販売。一部は、家庭で出来る縄文体験の役割も担っている。(支出44千円、収入60千円)<br>④仙台文学館グッズ:前年度までに制作し来館の記念として人気の高いしおり・クリアファイル等を継続販売し、特別展に関連したグッズも制作し、来館者のニーズに応えた。(支出119千円、収入525千円)<br>⑤メディアテークグッズ:ミュージアムショップ等と共同開発してきたオリジナルグッズを継続販売した。(支出20千円、収入65千円) | 刊行物販売 959<br><br>収益事業 |

### ⑤劇都仙台2022事業

都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑤の体系に基づき実施した。

①良質な公演の機会の拡大 ②表現者の発掘・育成 ③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援 ④教育や福祉など他ジャンルとの連携 ⑤情報交流や協働

|    |  |      |              |       |       |  |
|----|--|------|--------------|-------|-------|--|
| 23 | 市民能楽講座   | 1/22 | 日立システムズホール仙台 | 3,652 | 3,652 | 市負担金 2,286<br>入場料 1,264<br>その他 102                   |
|    | 能楽をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台能楽振興協会との共催により実施。新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度と3年度は開催を見合わせていたが、4年度は喜多流の佐藤寛泰、他による能楽公演をシアターホールで開催した。  |      |              |       |       | 入場者:396人   |
| 24 | 舞台スタッフ・ラボ  | 通年   | 宮城野区文化センター   | 6,132 | 3,967 | 市補助金 759<br>受講料 58<br>助成金他 3,150                     |
|    | ①オープン講座「高校/学生演劇クロニクル」(2/10):高校・大学を中心とした若い世代の表現活動について、事例紹介やアンケート調査結果の発表を交えながら、現状と課題、展望等を6名のゲストとともに話し合い共有する場として実施した。<br>②本講座:舞台監督、照明、音響の基礎を学ぶ基礎コース(2/4～9)と、演劇公演で実際にスタッフワークを体験する発展コース(2/11～18)を開催した。<br>③舞台スタッフ・ラボ×みやぶん演劇学校合同公演(発展コース本番・模擬公演)(2/19 2回公演):宮城野区文化センターとの共催により、ミュージカル『しょうじきなきこり～落としたものはなあに?』(脚本・演出:渡部三妙子)を実施した。 |      |              |       |       | 入場者等:<br>①入場者 13人<br>②受講者 18人<br>③受講者 8人<br>入場者 188人 |

|   |                   |                    |             |       |       |  |
|---|-------------------|--------------------|-------------|-------|-------|--|
| 25  | 10-BOX鑑賞プログラム     | 通年                 | 演劇工房10-BOX他 | 4,768 | 4,256 | 市補助金 3,993<br>入場料 263                  |
| <p>①仙台・劇のまちトライアルシアター「子育てであるある劇場」(10/21、11/26、11/27):子育て中の舞台関係者を中心に創作を行い、榴岡児童館、のびすく仙台との連携により出前公演を3回行った。新型コロナウイルス感染症対策のため少人数・小規模・短時間で実施した。</p> <p>②仙台・劇のまちトライアルシアター「にっかわ文化祭」(11/12～13):作並小学校新川分校跡施設を会場に、演劇、お笑いライブ、音楽ライブ、お化け屋敷等、様々なプログラムが一堂に楽しめる文化祭のようなフェスティバルを実施した。初めて演劇を鑑賞する方にも親しみを感じてもらえるようなコンテンツを積極的に組み込み、地域との連携も積極的に行い、仙台の演劇状況や地域の魅力を紹介する機会の創出を目指した。</p> <p>③能-BOX展示企画 能面・能衣装・能道具展「秘セズガ花 — 隠サズ、見セマス、能ノ世界」(2/5～19):『能-BOXを、美術館に』をコンセプトに、「能の美」を特殊な劇場空間「能-BOX」ならではの視点で魅せる実験的な展覧会を開催した。プロデュース・衣装能面提供:山中遼晶(観世流シテ方能楽師)、アートディレクター:午前アム。動的で斬新な展示により、実際の能を感じさせるような迫力ある会場づくりを試みた。来場者には写真や動画の撮影とSNSへの投稿を全て許可し、SNSを見て興味をもった若者が県外から来場する等、これまで能-BOXに足を運んだことのなかった観客層も訪れた。</p> <p>④10-BOX広報事業:公式Instagramを開設し、これまで10-BOXで開催されてきた演劇公演の写真を集めて公開した。市民団体が運営する「仙台演劇カレンダー」への編集協力を行い仙台圏の演劇情報を広く市民に発信する活動の促進に努めた。</p> |                   |                    |             |       |       | 入場者:<br>①57人<br>②299人<br>③241人         |
| 26  | 演劇と表現の講座          | 2月～3月              | 演劇工房10-BOX他 | 768   | 768   | 市補助金 747<br>受講料 21                     |
| 前年度に続き、仙台フォーラスを会場に演劇経験の有無を問わず参加者を募集し、俳優とともにコミュニケーションを学ぶ講座「10-BOX楽しく語る技術講座“推し”を魅力的に語る2023」を開催した(初級編2/25～26、上級編3/4～5)。メインビジュアルに集英社の漫画『まくむすび』のイラストを使用し、タイトルと合わせて若年層に興味をもたれる広報を行った。   |                   |                    |             |       |       | 参加者:12人                                |
| 27  | せんだい短編戯曲賞         | 通年                 | 演劇工房10-BOX他 | 1,668 | 1,668 | 市補助金 1,668                             |
| 平成24年度から実施している「短編戯曲」を対象とする戯曲賞。全国公募により次代の演劇を担う人材を発掘し、冊子発行によって若い世代の作家の作品上演の機会を増やす。平成30年度から作品上演と作品募集をそれぞれ隔年での実施とし、令和4年度は第8回の応募総数286作品の中から最終候補10作品、大賞1作品を選出した。また最終候補10作品を全て掲載した冊子(戯曲集)を3月に発刊した。   |                   |                    |             |       |       | 応募:286作品<br>最終候補:10作品<br>大賞:1作品        |
| 28  | 能-BOX事業           | 通年                 | 能-BOX       | 751   | 751   | 市補助金 563<br>受講料 188                    |
| 能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽をはじめ伝統的な日本文化への親しみと理解を深めるため、①「こどものための能講座」(講師:山中遼晶)を実施した(7/22～8/5)。②令和3年度に新規事業として立ち上げた「能-BOXゼミナール」は全5回実施した(8/6、9/10、9/17、10/15、11/19)。③協同組合仙台卸商センターとの協働により、卸町ふれあい市にて無料公演「響・演★能-BOX」を実施した(4/16、4/17、10/16)。仙台市能楽振興協会との共催による「能のおけいこ体験講座」「外国人向け能講座」は、令和2、3年度に引き続き実施を見送った*。   |                   |                    |             |       |       | 受講者:<br>①16人<br>②160人<br>来場者:<br>③456人 |
| 29  | 地域連携による演劇振興事業     | 通年                 | 演劇工房10-BOX他 | 200   | 0     |  |
| <p>①仙台市高等学校演劇祭(10/8～10/23):教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、「仙台市高等学校演劇祭」を宮城県高等学校演劇協議会との共催で実施した。</p> <p>②機材貸出等による舞台芸術活動サポート:学校公演や地域の市民活動に音響・照明等の機材貸出や運営アドバイス等、舞台芸術活動の支援を行った。</p> <p>③協力・協働事業:IMS磯貝メソッド仙台塾「声とことばをまなぶ」への事業協力を行った(名義共催)。インディペンデントシアターによる「最強の一人芝居フェス INDEPENDENT」東北版への事業協力を行った。東北大学電気通信研究所「身体による感情伝達を研究するための動作データベースの開発」について、実験協力者の募集(演劇関係者への声かけ等)を行い18名を斡旋した。宮城野高等学校「未来構想ゼミナール表現芸術系(舞台芸術系統)」について、助言や講師の紹介等の協力を行った。</p>  |                   |                    |             |       |       | ①参加者:319人<br>来場者:200人                  |
| 30  | 共通経費(事業間連携活動等事務費) | 通年                 | 演劇工房10-BOX他 | 1,317 | 234   | 市補助金 121<br>刊行物販売 113                  |
| 劇都仙台事業や教育・福祉等、他の専門組織との協働事業等にかかる共通の経費。ホームページの更新費や送料の支出、せんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売・次年度の事業に向けた視察や調査研究を行った。  |                   |                    |             |       |       |  |
| <b>⑥創造都市推進事業</b>  |                   |                    |             |       |       |  |
| 仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進した。  |                   |                    |             |       |       |  |
| 31  | 地下鉄駅コンサート         | 9/24,25、<br>10/1,2 | 地下鉄駅構内      | 1,004 | 1,004 | 市負担金 1,004                             |
| 仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催した。  |                   |                    |             |       |       | 来場者:3,160人<br>参加者:<br>28団体70人          |

| ⑦土井晩翠顕彰事業  |                      |                  |              |       |       |   |
|--|----------------------|------------------|--------------|-------|-------|---|
| 32   | 土井晩翠顕彰事業             | 通年               | —            | 782   | 782   | 市負担金 741<br>刊行物販売 41  |
| 平成29年度末をもって解散した土井晩翠顕彰会の事業を引き継ぎ、詩人・土井晩翠の業績と遺徳を顕彰する事業を行った。晩翠わかば賞・あおば賞の募集と賞の贈呈式を10/16に開催し、10/19の土井晩翠の命日に近い10/22に朗読と音楽の調べ「土井晩翠作品を味わう」を実施した。また晩翠草堂の展示品の管理と展示内容の充実に努めた。  |                      |                  |              |       |       |   |
| ⑧育成・普及事業   |                      |                  |              |       |       |   |
| 子どもたちが芸術文化に触れる機会を広く提供するとともに、アーティスト及び指導者の育成を図った。  |                      |                  |              |       |       |   |
| 33   | 芸術家派遣事業              | 9月～2月            | 各学校・地域       | 0     | 0     | 実施会場：<br>市内学校・保育所等<br>122カ所   |
| 文化庁から「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が業務受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供した。当年度は122施設にて実施（採択125件、中止3件）。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を担当。実行委員会の決算額は15,710千円。   |                      |                  |              |       |       |   |
| 34   | 東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト | 12/10、11、<br>2/5 | 日立システムズホール仙台 | 435   | 0     | 受講者：<br>①応募12人、受講5人<br>②応募13人、受講5人<br>③応募10人、受講8人<br>聴講者：<br>①45人<br>②40人<br>③20人 |
| 仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝大、仙台市、当財団の共同主催により、平成27年より継続開催している。当年度は①ピアノ部門（12/10）、②ヴァイオリン部門（12/11）、③金管楽器部門（2/5）の計3部門を実施した。日本最高レベルの音楽教育に触れることで、地域で音楽に取り組む子どもたちのモチベーション及び技術の向上、地域で音楽教育に取り組む指導者の指導力向上、音楽教育・演奏技術への市民の理解を深める催しとなった。   |                      |                  |              |       |       |   |
| ⑨出版事業  |                      |                  |              |       |       |   |
| 当財団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与した。   |                      |                  |              |       |       |   |
| 35   | 出版物の販売継続事業           | 通年               | —            | 1     | 31    | 刊行物販売 31  |
| <p>①仙台文学館刊行物販売事業：『仙台本のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴 生きることは愛すること』『ユキユキドンドン スズキヘキ詩集』等、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続して販売した。（支出0、収入6）</p> <p>②『仙台戯曲賞シリーズ』販売事業：『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売の他、ウェブサイトからの申込みにより継続販売する。販売価格は1,000円（税別）。（支出0、収入1）</p> <p>③『文化芸術の社会再生力』販売事業：当財団設立20周年記念事業として実施した連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力。」における鼎談と講演録を採録したブックレットを継続販売した。（支出0、収入2）</p> <p>④『RE:プロジェクト記録集』販売事業：平成23年度から27年度まで実施した事業「RE:プロジェクト」の成果物（『RE:プロジェクト通信』5年目のRE:プロジェクト通信）に活動の記録や振り返りを加えて1冊にまとめた本を継続販売した。（支出1、収入22）</p> |                      |                  |              |       |       |   |
| ⑩広報事業等   |                      |                  |              |       |       |   |
| 36   | 広報事業                 | 通年               | —            | 4,486 | 4,486 | 市補助金 4,486  |
| これまで発行してきた文化情報誌『季刊まちりよく』をリニューアルし、ウェブマガジン「まちりよく」として令和4年6月より運営を開始した。仙台や地域の文化芸術を担う多彩な人々へのインタビューや寄稿、イベント情報等、幅広く情報を発信するとともに、『季刊まちりよく』のアーカイブ記事も公開し、記事の充実に務めた。併せて、当財団ウェブサイト、Twitter等のSNSも利活用しながら、当財団の主催事業や活動、運営施設の情報等の発信を行った。   |                      |                  |              |       |       |   |
| 37   | 市民文化事業団友の会運営         | 通年               | —            | 2,129 | 762   | 友の会会費 762   |
| 市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続した。市民文化事業団通信「市民ぶんかレター」による当財団事業の広報、主催・協力事業における先行及び優待サービスの提供等を行った。年会費1,000円。会員：約1,800人   |                      |                  |              |       |       |   |
| 38   | 事業団事業全体にかかる共通事務費等    | 通年               | —            | 3,026 | 0     |   |
| <p>①共通事務費：事業全体の調整、新事業の調査・企画、チケット販売業務等を行った。</p> <p>②人材育成事業費：職員全体の資質向上を目的とした各種研修を実施するほか、個々の職員や施設の専門性に応じた技術・能力や意欲向上を目的とした研修・勉強会等の実施支援を行った。</p>  |                      |                  |              |       |       |   |

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業

第8回仙台国際音楽コンクールを開催した。

|  |                                      |    |                                 |         |         |   |
|--|--------------------------------------|----|---------------------------------|---------|---------|---|
| 39   | 事務局運営                                | 通年 | 日立システムズホール仙台                    | 15,009  | 15,009  | 市負担金 15,009   |
| コンクール事務局の運営を行った。   |                                      |    |                                 |         |         |   |
| 40   | 委員会運営                                | 通年 | 日立システムズホール<br>仙台他               | 4,391   | 4,391   | 市負担金 4,391  |
| 組織委員会(3/24)、運営委員会(7/25、3/14)、企画推進委員会(8/4、11/28、3/1)を開催した。  |                                      |    |                                 |         |         |   |
| 41   | コンクール事業                              | 通年 | 日立システムズホール仙台                    | 230,676 | 230,676 | 市負担金 190,281<br>入場料・協賛金等<br>40,395  |
| 第8回コンクール・ヴァイオリン部門を5/21から6/5に、ピアノ部門を6/11から6/26に開催した。<br>41の国と地域から573名の申込があり、動画データ等による予備審査を通過したヴァイオリン部門<br>37名、ピアノ部門31名が参加した。  |                                      |    |                                 |         |         | 入場者:<br>のべ7,639人(ガラコ<br>ンサート含む)   |
| 42   | 広報事業                                 | 通年 | 日立システムズホール仙台                    | 40,119  | 40,119  | 市負担金 40,119   |
| コンクール開催に係る広報活動及び開催期間の会場装飾等を実施した。<br>また、審査の様態等をインターネットでライブ及びアーカイブ配信を実施した。   |                                      |    |                                 |         |         |   |
| 43   | ボランティア事業                             | 通年 | 日立システムズホール仙台                    | 3,043   | 3,043   | 市負担金 3,043  |
| 第8回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行った。<br>①ボランティアリーダーミーティングの開催<br>②会場運営サポート:コンクール及び関連事業等の会場運営<br>③広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、「Map for The SIMC<br>Contestants」(ウェブ版及び印刷物)発行、ボランティアブログ運営<br>④出場者サポート:コンクール期間中での出場者に対する通訳サポート、場内アナウンス、コンク<br>ール出場者出演コンサートの通訳、「総合案内」運営<br>⑤ホームステイ受入れ:中止* |                                      |    |                                 |         |         | ボランティア登録:<br>251人   |
| 44   | 第7回及び第8回仙台国際音楽コンクール<br>最高位入賞者副賞コンサート | 通年 | 日立システムズホール<br>仙台、東京都内、他国<br>内各地 | 18,682  | 18,682  | 市負担金 16,755<br>入場料等 1,927   |
| 第7回コンクール最高位入賞者の副賞として、副賞提供期間である令和4年12月までに、ピアノ部<br>門最高位入賞者に国内オーケストラとの共演機会を1回提供した。また、コロナ禍により令和2年<br>度に続き3年度も中止することとなった日本国内でのリサイタルを4回開催し、CD制作等の機会を<br>提供した。<br>第8回コンクール最高位入賞者の副賞として、国内オーケストラの演奏会に出演する機会の提供<br>の準備や令和5年度に開催する日本国内でのリサイタルの準備、CDの制作・販売を行った。                             |                                      |    |                                 |         |         | リサイタル入場者:<br>のべ746人   |
| 45   | 仙台国際音楽コンクール関連事業                      | 通年 | 市内各所                            | 4,347   | 4,347   | 市負担金 4,347  |
| 【第8回コンクール開催期間中】<br>①審査委員によるマスタークラスを開催した。<br>②予選を通過しなかった出場者による「チャレンジャーズ・ライブ」を2回開催した。<br>③予選を通過しなかった出場者による「学校訪問ミニ・コンサート」を8校で開催した。<br>【第8回コンクール後】<br>④仙台の音楽文化振興を目的に、第7回コンクール入賞者と仙台市内の市民オーケストラが共演<br>する機会を設けた。   |                                      |    |                                 |         |         | ①受講生:29人<br>聴講者:1,023人<br>②出演者:14人<br>入場者:311人<br>③出演者:15人<br>入場者:799人<br>④入場者:428人 |

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

|   |                |    |                   |        |        |   |
|---|----------------|----|-------------------|--------|--------|---|
| 46  | 仙台ジュニアオーケストラ運営 | 通年 | 日立システムズホール<br>仙台他 | 26,572 | 26,572 | 市負担金 16,904<br>受講料、入場料等<br>9,668  |
| ・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管した。<br>・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託した。<br>①8/21に新潟市で開催された「ジュニアオーケストラ・フェスティバル」に参加した。<br>②10/23に「第30回定期演奏会」を開催した。<br>③3/12に「2023スプリングコンサート」を開催した。 |                |    |                   |        |        | 団員:100人<br>(3/31時点・在団生<br>80人、卒団生20人)<br>演奏会入場者:<br>①1,068人<br>②667人<br>③681人 |

(4) 演劇系練習施設運営事業

|  |                  |    |                     |        |        |                           |
|--|------------------|----|---------------------|--------|--------|---------------------------|
| 47   | せんだい演劇工房10-BOX運営 | 通年 | 演劇工房10-BOX<br>能-BOX | 23,862 | 23,862 | 市補助金 21,169<br>使用料等 2,693 |
| <p>「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備等を弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援していく。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えた。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行った。なお、当年度は再整備工事のため施設貸出に大幅な制限が生じたことから、利用料は例年より大幅な減収となった。</p> |                  |    |                     |        |        | 収益事業を含む                   |

(5) 震災メモリアル交流施設運営事業

|  |                    |    |              |        |        |   |
|--|--------------------|----|--------------|--------|--------|---|
| 48   | せんだい3.11メモリアル交流館運営 | 通年 | 3.11メモリアル交流館 | 58,590 | 58,590 | 市受託料 58,494<br>受講料 96   |
| <p>仙台市震災復興メモリアルの沿岸部拠点として、平成28年2月に地下鉄東西線荒井駅舎内に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営(①来館者の対応 ②事業の実施 ③管理業務の一部)を、職員常駐の枠組みとして、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行った。「震災の被害や状況を知り、その経験や教訓を学ぶ場」「東部沿岸地域の記憶を残し、継続的に地域再生への力を形成していく場」「東部沿岸地域への案内所・発着点」としての施設機能を持ち、様々な来館者・市民・住民の集う親しみやすい運営に努めた。上記のような施設機能を実現するため、下記の事業を実施した。</p> <p><b>【企画展(関連企画のツアーやワークショップ等含む)】</b><br/> <b>①おらほのアルバム ～縁側で見るまちのオモイデ写真～</b>(3/1～6/19)<br/> <b>②短冊展「わたしたちの3.11～800人が綴ったあの日の出来事と未来への願い」</b>(7/1～8/16)<br/> <b>③映像展「Voice～仙台市東部沿岸地域の伝承と物語」</b>(10/7～10/30)<br/> <b>④私がここで暮らしていくための科学～「黒い壁」の正体</b>(11/15～3/14)<br/> <b>⑤ここに根をはる一津波のあとの植物たちとその環境</b>(3/25～7/16)</p> <p><b>【その他事業】</b><br/> <b>・沿岸部の風土・文化体験事業:</b>「夏色ドロップス～あそんで味わう、せんだいの海辺」、「井土浜の竹竿でハゼ釣り」、「バスで巡る六郷沿岸の歴史」、「冬の遊びと手仕事シリーズ」、「まめげつつあん」、「ばんげにございん」等<br/> <b>・表現・物語で語り継ぐ事業:</b>「海辺のメモリアル帖」の発行vol.13～vol.16、おらほのアルバムプロジェクト出張イベント、Voice～仙台市東部沿岸地域の伝承と物語(仙台防災未来フォーラムステージプログラム参加等)<br/> <b>・市民・団体・組織との協力・連携事業</b><br/> <b>・アーカイブ・情報発信事業:</b>せんだい3.11メモリアル交流館YouTubeチャンネル開設等</p> |                    |    |              |        |        | <p>年間入館者:<br/>42,747人</p> <p>企画展来場者:<br/>①6,009人(4/1～)<br/>②3,442人<br/>③2,154人<br/>④8,152人<br/>⑤1,022人(～3/31)</p> <p>協力事業:54件<br/>仙台市立小学校見学:48校</p> |

(6) 芸術文化受託事業

(単位:千円)

|  |                      |     |              |        |        |  |
|--|----------------------|-----|--------------|--------|--------|--|
| 49   | 市制施行133周年記念コンサート     | 7/4 | 日立システムズホール仙台 | 4,386  | 4,386  | 市受託料 4,386   |
| <p>仙台市の市制施行記念式典の一環として開催する仙台フィルハーモニー管弦楽団(指揮:大井剛史)の演奏会。ソリストには第7回仙台国際音楽コンクールピアノ部門第4位の佐藤元洋を迎えて開催した。</p>  |                      |     |              |        |        | 入場者:507人   |
| 50   | せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営 | 通年  | メディアテーク      | 14,606 | 14,606 | 市受託料 14,606  |
| <p>東日本大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存・活用する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を運営した。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータ等を整備し保管した。③収集した資料の一部を、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、上映会や展覧会の開催等、様々な形で活用した。</p> |                      |     |              |        |        | <p>③ウェブ閲覧数:<br/>3,020,223回<br/>④「星空と路」参加者:2,818人</p> |

2. 定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

| 番号 | 事業名 | 期日   | 会場 | 支出 | 収入 | 収入備考     |
|----|-----|------|----|----|----|----------|
|    |     | 事業内容 |    |    |    | 入場者数等・備考 |

(単位:千円)

(1) 仙台文学館普及啓発事業

|  |              |              |       |     |     |   |
|--|--------------|--------------|-------|-----|-----|---|
| 51   | 特別展・企画展の関連事業 | 各展示の<br>開催時期 | 仙台文学館 | 101 | 101 | 市補助金 101  |
| <p>特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えた。</p> <p>①特別展「椎名誠」関連:トークイベント等を開催した。<br/>                 ②「夏休みこども文学館 えほんのひろば 忍ペンまん丸」関連:折り紙ワークショップや敷地内を巡るクイズラリー等を開催した。<br/>                 ③特別展「山内ジョージ」関連:講演会や、リーディングイベント等を開催した。<br/>                 ④写真展「仙台コレクション」関連:写真家による講演会やワークショップ等を開催した。</p> |              |              |       |     |     | <p>参加者:<br/>①105人<br/>②35人<br/>③83人<br/>④250人</p> |

|    |   |    |       |       |       |                          |
|----|---|----|-------|-------|-------|--------------------------|
| 52 | ことばの祭典ー<br>短歌・俳句・川柳への誘い   | 6月 | 仙台文学館 | 346   | 346   | 市補助金 346                 |
|    | 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当年度も事前応募形式で開催し、全国各地から832作品の応募があった。賞の発表や選者講評はウェブサイト上で行うと同時に、入賞作品や選者の講評をパネルにして、館内で一定期間掲示した。  |    |       |       |       | 応募者:832人                 |
| 53 | 文学講座、講演会等の開催  | 通年 | 仙台文学館 | 1,829 | 1,829 | 市補助金 249<br>受講料 1,580    |
|    | 文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座を開講した。開催にあたっては、安心して受講してもらえるよう、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した。<br>①佐伯一麦エッセイ講座:館長の作家・佐伯一麦によるエッセイの鑑賞と実作指導の連続講座。通年で7回開催した。<br>②仙台文学館ゼミナール:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースに加え、古典芸能を楽しむ部門を設け、各講座をそれぞれ3~5回連続で開催した。 |    |       |       |       | 参加者:<br>①150人<br>②1,933人 |
| 54 | 教育機関・関係者との連携事業  | 通年 | 仙台文学館 | 0     | 0     |                          |
|    | 県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行った。また団体利用向けに、常設展示にからめた内容のワークシートの作成を行った。  |    |       |       |       | 対応数:19件                  |
| 55 | 学芸員出前講座   | 通年 | —     | 0     | 0     |                          |
|    | 市内を中心に近隣の学校や市民センター等に学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行った。   |    |       |       |       | 講座数:13件                  |
| 56 | 情報誌の発行  | 通年 | —     | 944   | 944   | 市補助金 944                 |
|    | 文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続した。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図った。   |    |       |       |       |                          |
| 57 | こどもの本の部屋の運営   | 通年 | 仙台文学館 | 0     | 0     |                          |
|    | 絵本を中心に子どもの本を自由に読んでもらうコーナー。コロナ禍で部屋自体は閉室しているが、情報コーナーの一部で展開を継続した。文学館の展示観覧は難しい小さな子どもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替え等も行い活性化を図った。   |    |       |       |       |                          |
| 58 | 文学館友の会の支援   | 通年 | —     | 0     | 0     |                          |
|    | 会の事務局を担当し、文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行等を実施した。   |    |       |       |       |                          |
| 59 | 出版物等の販売   | 通年 | —     | 383   | 383   | 市補助金 297<br>刊行物販売 86     |
|    | 佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座、小池光短歌講座の記録集を制作・販売した。また、企画展開連の物品も館内で継続して販売した。   |    |       |       |       |                          |

### 3.定款第4条第5号の事業(文化芸術等に関する生涯学習の支援)

| 番号 | 事業名 | 期日   | 会場 | 支出 | 収入 | 収入備考                |
|----|-----|------|----|----|----|---------------------|
|    |     | 事業内容 |    |    |    | 入場者数等・備考<br>(単位:千円) |

|                                 |   |    |         |        |        |  |
|---------------------------------|---|----|---------|--------|--------|--|
| <b>(1) せんだいメディアテーク 展覧会等総合事業</b> |   |    |         |        |        |  |
| 60                              | せんだい・アート・ノード・プロジェクト   | 通年 | メディアテーク | 19,748 | 19,748 | 市補助金 19,748                              |
|                                 | 優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信した。「川俣正/仙台インプログレス」や「ワケあり雑がみ部」等の事業とこれらに伴う情報発信を行った。<br>①川俣正/仙台インプログレス:仙台市宮城野区岡田・新浜の貞山運河に仮設の船橋である作品《みんなの橋(テンポラリー)》を制作した。また、アーカイブ映像や模型等の報告展を行った。<br>②定禅寺子どもプロジェクト:西公園エリア等で事業実施のためのリサーチを行った。<br>③ARCADE(12/19~1/15):大阪市西成区山王にある創造活動拠点「kioku 手芸館 たんす」に集まる女性たちと美術家・西尾美也との共同制作により生まれたファッションブランド「NISHINARI YOSHIO」の写真展を、仙台フォーラス 7階evenで実施した。<br>④ワケあり雑がみ部:「雑がみ」をテーマとした自由な造形活動を実際に集まる活動とオンラインの両方で行った。<br>⑤コミュニケーション:公開ミーティングの実施(2月)、ジャーナルの発行(3月)を行った。 |    |         |        |        | ①~⑤参加者:<br>77,978人<br>④配信閲覧数:<br>15,288人 |

|    |  |          |         |        |        |   |
|----|--|----------|---------|--------|--------|---|
| 61 | 展覧会事業「定禅寺パターゴルフ???倶楽部!!」   | 1/11~2/5 | メディアテーク | 13,236 | 13,236 | 市補助金 7,478<br>入場料 258<br>助成金 5,500                          |
|    | 例年の会場となる6階ギャラリー改修により、オープンスクエアで実施。1階の人の往来を生かし、バリアフリーデザイン事業の観点を織り交ぜ、障害の有無や年齢の隔てなく関わることのできる「コミュニケーションの場」を2組のアーティスト(コンタクトゴンゾ、ドットアーキテツ)に依頼。前代未聞の「パター・ゴルフ場型」の展覧会場では、見えない人・見える人がともにプレーするイベントが実施されたほか、連日、大勢の親子連れが参加した。   |          |         |        |        | 入場者:7,524人<br>関連企画参加者:142人                                  |
| 62 | スタジオ情報発信/地域文化アーカイブ   | 通年       | メディアテーク | 2,305  | 2,305  | 市補助金 805<br>助成金 1,500                                       |
|    | 市民間の交流、対話を促進するための対話の場/機会/メディアを用意した。<br>＜スタジオ情報発信＞<br>市民力を醸成し、市民の主体的な社会参画を文化面から活性化していくことを目指して、様々な市民文化活動と協働した。<br>＜地域文化アーカイブ＞<br>市民による自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す事業を実施した。成果物は、メディアテークに保管され、ライブラリーへの配架やウェブサイト等での発信等により、広く市民に活用される財産とした。また、それらをもとにした小規模な展示を行うことで、仙台市域の様々な文化活動へのより広く深い市民の関心を促した。  |          |         |        |        | 参加者:15,569人   |
| 63 | 発信・施設活用推進  | 通年       | メディアテーク | 4,056  | 4,056  | 市補助金 4,000<br>刊行物等販売 56                                     |
|    | 各種団体との連携を通じ地域における役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開した。<br>①バリアフリー・デザイン事業:目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳や、託児付き、手話通訳・要約筆記付きの事業を行った。<br>②館長発信事業:発信力のある鷲田清一館長を軸に、著名なゲストとのトークの開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、メディアテーク全体の新しい姿を示していった。併せて、館長の動向を伝える情報発信等も行い、より広い理解へと努めた。<br>③地域文化連携・施設活用推進:各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリー等館全体の機能を生かしたイベントや展示や上映会等多様な活用事例を示した。さらに、市民図書館とのイベント等の各種連携を通じ、より広い関心を集め、交流を促進する機会をつくった。また、取り組みが広く市民に届くよう定期的な広報、啓発、情報発信に努め、次年度事業に関する調査を通じ、時勢に敏感に応じた事業企画に取り組んだ。 |          |         |        |        | 参加者:5,910人<br>①272人(うち展覧会イベント参加者142人再掲)<br>②194人<br>③5,444人 |
| 64 | アーティストリサーチ   | 通年       | メディアテーク | 1,000  | 1,000  | 市補助金 1,000  |
|    | 令和5年度の展覧会へ向けての出展準備業務や、アーティストを招聘、有識者、市民とともに、調査を開始した。  |          |         |        |        |   |

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業(市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

| 番号      | 事業名 | 期日   | 会場 | 支出 | 収入 | 収入備考     |
|---------|-----|------|----|----|----|----------|
|         |     | 事業内容 |    |    |    | 入場者数等・備考 |
| (単位:千円) |     |      |    |    |    |          |

(1)仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

|       |   |    |         |        |        |               |
|-------|---|----|---------|--------|--------|---------------|
| ①管理運営 |   |    |         |        |        |               |
| 65    | 仙台市歴史民俗資料館 管理運営   | 通年 | 歴史民俗資料館 | 61,271 | 61,271 | 市指定管理料 61,271 |
|       | 歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行った。 ※5月31日(火)~6月3日(金)は玄関の塗装工事のため臨時休館した。 |    |         |        |        |               |
| ②展示事業 |   |    |         |        |        |               |
| 66    | 仙台市歴史民俗資料館 常設展示   | 通年 | 歴史民俗資料館 | 699    | 699    | 市指定管理料 699    |
|       | 「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介した。また、震災関連展示を行った。 |    |         |        |        | 年間入館者:15,198人 |

|                          |  |            |         |       |       |  |
|--------------------------|--|------------|---------|-------|-------|--|
| 67                       | 企画展「教科書でたどる仙台の教育文化～江戸・明治から現代～」   | 4/29～7/3   | 歴史民俗資料館 | 326   | 326   | 市指定管理料 326   |
|                          | 仙台藩時代の武士の教育や庶民の教育における四書五経、往来物等の教科書、また今から150年前の明治5年(1872)学制公布以降の近代的な国民国家における教科書、そして戦時下の教科書、戦後すぐの墨塗教科書や暫定的な教科書、さらには現代の教科書等、およそ200年の教科書関連資料を紹介し、仙台における学びの文化の移り変わりとその意義を考えた。   |            |         |       |       | 入館者:1,505人   |
| 68                       | 特別展「仙台の夏のくらし・秋のくらし」  | 7/16～11/13 | 歴史民俗資料館 | 1,058 | 1,058 | 市指定管理料 1,058   |
|                          | 仙台の夏から秋にかけての生活に欠かせなかったもの(蚊帳、蚊取り線香、ハエとり器、うちわ、扇子等)や衣類(夏服・冬服と衣替え)、娯楽(花火、登山、海水浴、芋煮会、紅葉狩り等)、飲食物、年中行事等について紹介した。  |            |         |       |       | 入館者:6,668人   |
| 69                       | 企画展「人力車から地下鉄へ～新しい時代の乗り物～」  | 11/26～4/16 | 歴史民俗資料館 | 584   | 584   | 市指定管理料 584   |
|                          | 東北新幹線開業40周年、仙台市地下鉄開業35周年を迎え、鉄道をはじめとして仙台のまちを変えてきた、人力車や自転車・バス・自動車等の様々な交通用具について展示し、交通の発達とともに変わってきた仙台のまちの風景について紹介した。   |            |         |       |       | 入館者:5,570人(3/31時点)   |
| <b>③普及啓発事業</b>           |  |            |         |       |       |  |
| 70                       | 講座・体験イベント等   | 通年         | 歴史民俗資料館 | 38    | 38    | 市指定管理料 38  |
|                          | <p>①資料館サポーター養成講座(7月～3月):「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者の様々な活動につながっていくことを目的とした。</p> <p>②子ども講座(7/23、1/14、3/18、3/25):おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催した。</p> <p>③ゴールドウィーク「おもしろ昔たいけん」(4/29～5/5の間の6日間):イベント内容を見直し、かつての生活用具であった「石臼ひき」の体験活動を実施した。</p> <p>④クイズラリー(夏7/23～8/28・冬12/17～1/15):クイズやパズル形式での自主見学学習を実施した。</p> <p>⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」(8/6、8/11、10/8、2/25):展示室、収蔵庫や資料整理室等、普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催した。</p> <p>⑥ホームムービーの日(10/15):家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開した。</p> |            |         |       |       | 参加者:<br>①23人登録(うち新規3人)<br>②27人<br>③253人<br>④244人<br>⑤34人<br>⑥21人       |
| 71                       | 資料館だより等の発行(その他の事業)   | 通年         | 歴史民俗資料館 | 20    | 20    | 市指定管理料 20  |
|                          | 1年間の資料館での事業やイベント等についてまとめた「資料館だより」をウェブサイトで公開するほか、資料館の講座や体験学習等のイベントチラシを作成し学校や関連施設に発送周知した。  |            |         |       |       |  |
| 72                       | 学校教育との連携   | 通年         | 歴史民俗資料館 | 0     | 0     |  |
|                          | 学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習及び総合的な学習の際、年間50校を超える市内外の学校が見学を訪れ、石臼ひき等を体験を行った。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施した。   |            |         |       |       | 利用学習:96校(うち仙台市内60校)<br>体験活動:<br>のべ496回<br>実務実習:<br>6大学14人<br>職場体験:3校9人 |
| <b>④資料の収集・保管及び調査研究事業</b> |  |            |         |       |       |  |
| 73                       | 歴史民俗資料の収集・保管   | 通年         | 歴史民俗資料館 | 1,267 | 1,267 | 市指定管理料 1,267   |
|                          | 資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進した。   |            |         |       |       |  |
| 74                       | 調査報告書等の発行  | 通年         | 歴史民俗資料館 | 1,082 | 1,082 | 市指定管理料 1,082   |
|                          | 仙台地域を中心に民俗(民間伝承)、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行した。また館蔵資料の公開、活用のため「資料集」を編集・刊行した。  |            |         |       |       |  |

**(2) 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営・調査研究・普及啓発事業**

|              |   |    |         |        |        |               |
|--------------|---|----|---------|--------|--------|---------------|
| <b>①管理運営</b> |   |    |         |        |        |               |
| 75           | 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営   | 通年 | 富沢遺跡保存館 | 96,685 | 96,685 | 市指定管理料 96,685 |
|              | 旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理した。 |    |         |        |        |               |

| ②展示事業   |                              |           |         |        |        |  |
|---|------------------------------|-----------|---------|--------|--------|--|
| 76  | 仙台市富沢遺跡保存館 常設展示              | 通年        | 富沢遺跡保存館 | 12,673 | 12,673 | 市指定管理料 12,673  |
| 地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行った。  |                              |           |         |        |        | 年間入館者:<br>31,419人  |
| 77  | 第100回企画展「仙台の遺跡めぐり 再発見! 富沢遺跡」 | 4/22~7/18 | 富沢遺跡保存館 | 13     | 13     | 市指定管理料 13  |
| 発掘調査の成果をもとに仙台市内の遺跡を紹介し、身近な地域の歴史や文化財を知るきっかけとする企画展。第100回となることから、富沢遺跡の発掘調査成果を振り返り、最新の情報も紹介した。(ポスター・チラシの印刷は令和3年度予算にて執行済)  |                              |           |         |        |        | 入館者:9,784人   |
| 78  | 第101回企画展「ガラスにまつわるエトセトラ」      | 9/2~11/27 | 富沢遺跡保存館 | 317    | 317    | 市指定管理料 317   |
| 宮城県内から出土したガラス製品と現代の地元作家によるガラス製品を展示し、出土資料への市民の理解を深めた。  |                              |           |         |        |        | 入館者:8,443人   |
| 79  | 第102回企画展「遺跡のミ・カタ」            | 1/5~2/26  | 富沢遺跡保存館 | 749    | 749    | 市指定管理料 749   |
| 遺跡の発掘調査では、出土した土器や石器等の道具、骨や種子等の自然物、さらには埋まっていた土自体もいろいろな方法で調べられている。その見方(分析・調査の方法)と、解き明かされた昔の暮らしの一端を紹介した。   |                              |           |         |        |        | 入館者:3,546人   |
| 80  | 第103回企画展(令和5年度)ポスター・チラシの印刷   | 通年        | 富沢遺跡保存館 | 145    | 145    | 市指定管理料 145   |
| 令和5年度開催の第103回企画展のポスター・チラシを作成した。   |                              |           |         |        |        |  |
| ③普及啓発事業   |                              |           |         |        |        |  |
| 81  | 講座・体験イベント・ボランティア事業等          | 通年        | 富沢遺跡保存館 | 995    | 995    | 市指定管理料 995   |
| <p>①地底の森フェスタ2022(10/8-10):新型コロナウイルス感染症対策を施したメニューへと変更し、「おいでよ地底の森2022秋」として期間を分散して実施した。ボランティア会とともに企画実施。</p> <p>②考古学講座(2/11、3/18):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する、一般市民を対象とした講座。</p> <p>③たのしい地底の森教室(通年):当館スタッフが、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物の説明、企画展関連イベントなどを行い、古代人の技術や地底の森ミュージアムの特性を紹介する活動を行った。ゴールデンウィーク期間や土・日・祝を中心に10回実施した。</p> <p>④利用学習事業(6月~3月):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施した。授業内容は館内外の見学と石器使用体験等の体験学習。実施後、実践内容はウェブサイトで公開した。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行った。</p> <p>⑤市民文化財研究員育成(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による8名を対象に、1年間にわたり週1回 当館学芸員が支援する活動日を設けた。成果は活動報告書にまとめた。</p> <p>⑥ボランティア育成(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助等を行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行った。</p> <p>⑦地域や大学との連携:近隣小学校が運営する会議や市民センター主催事業に参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行う等、地域や大学との連携を強化する取り組みを行った。</p> <p>⑧富沢ゼミ(9/11、11/19):仙台市内や宮城県内の遺跡や文化財、博物館等を紹介する講座。</p> |                              |           |         |        |        | 参加者:<br>①のべ287人<br>②第1回77人(うちオンライン29人)<br>第2回78人(うちオンライン33人)<br>③のべ625人<br>④15校1,059人<br>⑤5人修了<br>⑥65人登録(うち新規5人)<br>⑦学生サポーター 5人<br>⑧第1回39人<br>第2回50人(うちオンライン16人) |
| 82  | 運営懇談会                        | 通年        | 富沢遺跡保存館 | 0      | 0      |  |
| 当館の運営に理解と協力を得るために事業を紹介したり、館の運営や事業に生かすことを目的に意見やニーズの聴取を行ったりするための場を設ける。近隣小学校3校(長町南小学校、大野田小学校、鹿野小学校)に聞き取り調査を行い、学校や地域との連携を進めた。   |                              |           |         |        |        |  |
| ④資料の収集・保管及び調査研究事業   |                              |           |         |        |        |  |
| 83  | 資料の収集・保管                     | 通年        | 富沢遺跡保存館 | 0      | 0      |  |
| 仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用した。   |                              |           |         |        |        |  |
| 84  | 遺構の各種分析調査                    | 通年        | 富沢遺跡保存館 | 711    | 711    | 市指定管理料 711   |
| 保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、地下水排水用配管内部構造調査を行った。併せて保存処理検討会を実施した。さらに25年を経過した遺跡保存の現状と今後を考える研究会(①1/20、②1/21)を実施した。  |                              |           |         |        |        | 参加者:<br>①20人<br>②49人   |

|   |                |    |         |     |     |            |
|---|----------------|----|---------|-----|-----|------------|
| 85  | 野外展示の維持管理と関連調査 | 通年 | 富沢遺跡保存館 | 449 | 449 | 市指定管理料 449 |
| 野外展示「氷河期の森」を適切に維持管理するための調査等を行った。併せて植生検討会を開催した。  |                |    |         |     |     |            |
| 86  | 研究報告の刊行        | 通年 | 富沢遺跡保存館 | 203 | 203 | 市指定管理料 203 |
| 富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の職員・ボランティア等による調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめた。   |                |    |         |     |     |            |
| 87  | 次年度事業準備・その他    | 通年 | 富沢遺跡保存館 | 108 | 108 | 市指定管理料 108 |
| 企画展・体験教室等についての資料調査等を行った。また施設長寿命化改修工事及び常設展示リニューアルに向けて、展示内容や方法を検討するために有識者を招き指導・助言をいただく場を設けるとともに、職員が調査を実施した。 |                |    |         |     |     |            |

### (3) 仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

|  |                |            |        |        |        |   |
|--|----------------|------------|--------|--------|--------|---|
| <b>①管理運営</b>   |                |            |        |        |        |   |
| 88   | 仙台市縄文の森広場 管理運営 | 通年         | 縄文の森広場 | 48,303 | 48,303 | 市指定管理料 48,303                                   |
| 縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理した。   |                |            |        |        |        |   |
| <b>②展示事業</b>   |                |            |        |        |        |   |
| 89   | 仙台市縄文の森広場 常設展示 | 通年         | 縄文の森広場 | 15,469 | 15,469 | 市指定管理料 15,469                                   |
| 施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行った。   |                |            |        |        |        |   |
| 90   | コーナー展示         | 通年         | 縄文の森広場 | 90     | 90     | 市指定管理料 90                                       |
| 宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介した。<br>①「東北の縄文遺跡－3Dでみる下ノ内浦遺跡の縄文土器－」(3/19～6/12)<br>②「東北の縄文遺跡－大野田遺跡の土偶たち－」(7/31～10/18)<br>③「東北の縄文遺跡－伊古田遺跡の土偶とその世界－」(12/1～2/11)<br>④「東北の縄文遺跡－仙台の遺跡と米沢の遺跡－」(3/13～)  |                |            |        |        |        |   |
| <b>③普及啓発事業</b>   |                |            |        |        |        |   |
| 91   | 縄文まつり          | 4/29,10/22 | 縄文の森広場 | 605    | 605    | 市指定管理料 605                                      |
| 季節ごとに開催する自由参加イベント。当年度は春(4/29)と秋(10/22)の2回実施し、その日だけの体験コーナーや音楽演奏等を実施した。また、野外コンサートを不定期で3回開催した。  |                |            |        |        |        | 参加者:<br>春 398人<br>秋 652人<br>コンサート 189人          |
| 92   | 普及啓発事業         | 通年         | 縄文の森広場 | 1,597  | 1,597  | 市指定管理料 1,597                                    |
| ①団体予約:子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験。<br>②随時体験:来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供した。<br>③体験講座:各種体験教室を開催した。<br>(1)週末体験講座(4/17、5/29、9/11、11/13、1/15、3/5)<br>(2)夏休み子ども考古学教室(7/30、8/20)<br>(3)発掘調査体験教室(10/12、10/16)<br>④特別イベント:夏(8/8)・秋(10/8)・冬(12/24)・春(3/25)の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等を開催した。 |                |            |        |        |        | 参加者:<br>③<br>(1)94人<br>(2)33人<br>(3)4人<br>④215人 |
| 93   | 縄文の森講座         | 12月～2月     | 縄文の森広場 | 94     | 94     | 市指定管理料 94                                       |
| 縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回公募会場30名・オンライン80名対象。<br>①「仙台発掘最前線!!2022」(12/11):仙台市文化財課職員<br>②「福島県会津地域の縄文遺跡!藤権現遺跡の発掘成果!!」(1/22):植村泰徳<br>③「縄文人－その実像に迫る－」(2/26):奈良貴史   |                |            |        |        |        | ①29人<br>②47人<br>③72人                            |
| 94   | ボランティア育成事業     | 通年         | 縄文の森広場 | 16     | 16     | 市指定管理料 16                                       |
| 当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップのための事業。各種体験活動の補助、より分かりやすい展示説明等のための研修や、地底の森ミュージアムと合同で遺跡見学会の研修も行った。   |                |            |        |        |        |   |

|   |                                     |                |                              |       |       |                                      |
|---|-------------------------------------|----------------|------------------------------|-------|-------|--------------------------------------|
| 95  | 学校教育との連携                            | 8月、<br>10月～12月 | 縄文の森広場                       | 15    | 15    | 市指定管理料 15                            |
| 学校教育との連携促進を目的として実施する事業。10月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施。10月～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れた。  |                                     |                |                              |       |       | 博物館実習：<br>2人(2校)<br>職場体験：<br>23人(5校) |
| 96  | 利用学習事業                              | 通年             | 縄文の森広場                       | 2,195 | 2,195 | 市指定管理料 2,195                         |
| 小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習を実施した。当館利用推進を目的として、授業の実践校に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行った。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行った。 |                                     |                |                              |       |       | 参加者：<br>1,459人(21校)                  |
| 97  | 運営懇談会                               | 通年             | 縄文の森広場                       | 1     | 1     | 市指定管理料 1                             |
| 今後の館の運営のために、近隣小学校の校長と意見交換を交わし、次年度以降の運営懇談会のあり方を相談し、検討した。   |                                     |                |                              |       |       |                                      |
| 98  | 野外展示「縄文の森」の多目的活用<br>「森でみつける『じょうもん』」 | 通年             | 縄文の森広場<br>太白山自然観察の森<br>太白小学校 | 56    | 56    | 市指定管理料 56                            |
| 野外展示「縄文の森」の利活用の幅を広げるために、近隣住民・小学校・地域の団体等と連携を図りながら、専門家の指導を受けて植生環境の充実を図る事業。太白小学校1年生を対象として、生育するクワ等を採用し育てる事業を行ってきた。当年度も、引き続き縄文時代に利用された植物を観察する事業を太白山自然観察の森の職員と連携して行った。                |                                     |                |                              |       |       | 参加者：<br>10/27 34人<br>3/2 33人         |

#### ④資料の収集・保管及び調査研究事業

|   |                         |    |        |     |     |            |
|---|-------------------------|----|--------|-----|-----|------------|
| 99  | 体験活動メニューの調査研究           | 通年 | 縄文の森広場 | 435 | 435 | 市指定管理料 435 |
| 各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組んだ。  |                         |    |        |     |     |            |
| 100   | 復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査 | 通年 | 縄文の森広場 | 499 | 499 | 市指定管理料 499 |
| 公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究した。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討するために、専門家を講師として意見交換を行った。また、床面の貼替えを行った際に、柱の強度測定を実施し、今後の維持管理のための記録測定を行った。 |                         |    |        |     |     |            |
| 101   | ボランティアスタッフとの共同調査研究      | 通年 | 縄文の森広場 | 0   | 0   |            |
| 当館が実施している各種事業の内容深化及び新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施した。  |                         |    |        |     |     |            |
| 102   | 次年度コーナー展資料調査            | 通年 | 縄文の森広場 | 30  | 30  | 市指定管理料 30  |
| 令和5年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施した。  |                         |    |        |     |     |            |
| 103   | 資料の収集・保管事業              | 通年 | 縄文の森広場 | 15  | 15  | 市指定管理料 15  |
| 仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行った。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行った。   |                         |    |        |     |     |            |

#### (4)仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

|  |            |    |       |         |         |                |
|--|------------|----|-------|---------|---------|----------------|
| ①管理運営  |            |    |       |         |         |                |
| 104  | 仙台文学館 管理運営 | 通年 | 仙台文学館 | 182,371 | 182,371 | 市指定管理料 182,371 |
| 文学に関する展示等を実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行った。 |            |    |       |         |         | 収益事業を含む        |
| ②展示事業  |            |    |       |         |         |                |
| 105  | 仙台文学館 常設展示 | 通年 | 仙台文学館 | 0       | 0       |                |
| 明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学をテーマを設けて紹介した。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行った。                     |            |    |       |         |         |                |

|                          |   |            |       |       |       |              |
|--------------------------|---|------------|-------|-------|-------|--------------|
| 106                      | 特別展「椎名誠 旅する文学館 in 仙台2022」   | 4/23～6/26  | 仙台文学館 | 1,541 | 1,541 | 市指定管理料 1,541 |
|                          | 1979年にエッセイ集『さらば国分寺書店のオババ』でデビューし、以来40年以上にわたって、エッセイ、私小説、SF小説、ルポルタージュ、写真集等、様々なジャンルの著書を発表してきた作家・椎名誠の展示を開催。椎名の代名詞とも言える「旅」に焦点をあて、旅の軌跡をたどりながら、作品の引用とともに旅で手に入れた品々、椎名自身が撮影した写真等を紹介したほか、若い頃に仲間たちと制作していた手作り雑誌、直筆の原稿、取材ノート等、作家の息づかいが感じられる資料を公開した。 |            |       |       |       | 観覧者:2,118人   |
| 107                      | 夏休み子ども文学館えほんのひろば「忍ペンまん丸展」   | 7/17～9/11  | 仙台文学館 | 1,657 | 1,657 | 市指定管理料 1,657 |
|                          | いがらしみきおの「忍ペンまん丸」の原画展を開催した。「まん丸」というペンギン忍者が冒険を通じて成長する物語は、子どもから大人まで楽しめる人気作品で、キャラクターと一緒に記念撮影ができるフотスポット等を設け、作品世界を体感できるようにした。また文学館敷地を巡るワークシートを作成し、気軽に来館いただける仕掛けを用意した。  |            |       |       |       | 観覧者:6,569人   |
| 108                      | 特別展「山内ジョージ 文字絵の世界」  | 10/1～12/11 | 仙台文学館 | 3,104 | 3,104 | 市指定管理料 3,104 |
|                          | 宮城県出身の漫画家・イラストレーター・山内ジョージの文字絵展を開催。父の故郷・登米市で育った山内は、手塚治虫や石ノ森章太郎に憧れ「トキワ荘」で漫画家として研鑽を重ね、東京オリピックを契機に、イラストレーションに興味を持ち、文字と絵を組み合わせ「文字絵」を生み出した人物。本展では「河北新報」に掲載された中学時代の4コママンガ、「トキワ荘」時代の資料、様々な「文字絵」作品の原画を紹介した。                                    |            |       |       |       | 観覧者:4,314人   |
| 109                      | 写真展「仙台コレクション2001-2022 1万枚のメッセージ」  | 1/21～3/21  | 仙台文学館 | 1,660 | 1,660 | 市指定管理料 1,660 |
|                          | 2000年から仙台の街を撮り続けている「仙台コレクション」の写真作品1万点を紹介した。また仙台ゆかりの人々に執筆いただいたエッセイや、新規撮影の文学のある風景の写真も展示した。  |            |       |       |       | 観覧者:3,891人   |
| 追加                       | 仙台市名誉市民「杉村悖作品展 存在と空間の伝説」  | 12/17～27   | 仙台文学館 | 0     | 0     | 市指定管理料 0     |
|                          | 仙台市名誉市民の杉村悖の作品展。例年の開催会場である仙台市役所本庁舎ギャラリーホール休止に伴い、仙台市からの展示追加実施の依頼により開催。会期中には杉村豊氏のギャラリートークを行った。  |            |       |       |       | 観覧者:179人     |
| 110                      | 新春ロビー展「100万人の年賀状展」  | 1/11～2/12  | 仙台文学館 | 178   | 178   | 市指定管理料 178   |
|                          | 文学館あての年賀状を広く一般から募集した。またゆかりの文学者から寄せられた年賀状等も展示した。   |            |       |       |       | 観覧者:3,155人   |
| 111                      | 次年度事業準備・その他   | 通年         | 仙台文学館 | 3,301 | 3,301 | 市指定管理料 3,301 |
|                          | 令和5年春の特別展の準備を進めた。   |            |       |       |       |              |
| <b>③資料の収集・保管及び調査研究事業</b> |   |            |       |       |       |              |
| 112                      | 資料の収集・保管  | 通年         | 仙台文学館 | 2,027 | 2,027 | 市指定管理料 2,027 |
|                          | 宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行った。収集した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行った。また、必要に応じて資料の修復を行った。   |            |       |       |       |              |

#### 5.定款第4条第6号の事業(文化施設及び生涯学習施設の管理運営)

| 番号 | 事業名 | 期日   | 会場 | 支出 | 収入 | 収入備考 |
|----|-----|------|----|----|----|------|
|    |     | 事業内容 |    |    |    | 備考   |

(単位:千円)

(1) 仙台市青年文化センター管理運営事業

|   |                 |    |              |         |         |                   |
|---|-----------------|----|--------------|---------|---------|-------------------|
| 113   | 仙台市青年文化センター管理運営 | 通年 | 日立システムズホール仙台 | 364,581 | 364,581 | 市指定管理料<br>364,581 |
| <p>令和4年度から5年間の指定管理を受け、その開始年となる当年度は次のとおり施設運営を行った。</p> <p>(1)利用者が安心・安全に利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務をより強化するとともに、火災や震災等の災害に対してより実践的に対処できる防災体制について、不断の見直しを行いながら取り組んだ。</p> <p>(2)利用者と積極的なコミュニケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスをを行い利用者の増加を目指した。</p> <p>(3)施設利用や芸術文化に関するタイムリーな情報を広く提供するなど広報を強化した。</p> <p>(4)市民の文化活動の拠点施設及び劇場法にうたう劇場・音楽堂としての役割を担うことを認識し、地域との連携や、地域資源を有効に活用するなど工夫しながら各種事業を展開し、より市民に親しまれる施設づくりを進めた。</p> <p>(5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続するなど意見集約を積極的にを行いながら業務改善に努めた。</p> <p>(6)補助犬受入のためのルールや環境の整備など、障害のある利用者へ「合理的配慮」への取り組みを行い障害を理由とする差別の解消の推進に努めた。</p> <p>(7)令和3年度のリニューアルの改修ポイント等を十分に活用し、情報発信するなど、よりお客様にご満足いただける施設を目指した。</p> <p>(8)大規模改修で未改修の設備があり、それらによる館運営に支障が生じる懸念もあるなか、施設利用者に不都合や不利益が生じることのないよう施設設置者と連携し適切な施設維持管理に努めるとともに、次期大規模改修に備え、これまで培った管理運営の知識と経験を生かし、施設設置者への働きかけを行うなど、更なる取り組みを行った。</p> <p>(9)楽都仙台や劇都仙台の拠点施設として事業の運営サポートほか、「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨をふまえた施設運営を行った。</p> <p>(10)新型コロナウイルス感染症対策として、前年度に引き続き貸出備品の消毒など基本的対応の継続に加え、全利用者に感染防止チェックリストを渡し防止対策への取り組みを促した。</p> <p>(11)世界的なエネルギー不足に配慮した、節電などの省エネに関する取り組みを行った。</p> |                 |    |              |         |         |                   |
| <p>年間利用者:<br/>306,775人</p> <p>収益事業を含む</p>   |                 |    |              |         |         |                   |

(2) 仙台市泉文化創造センター管理運営事業

|  |                  |    |                     |        |        |               |
|--|------------------|----|---------------------|--------|--------|---------------|
| 114  | 仙台市泉文化創造センター管理運営 | 通年 | 仙台銀行ホール イズミ<br>ティ21 | 97,261 | 97,261 | 市指定管理料 97,261 |
| <p>「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として令和2年度から5年間の指定管理を受け、その3年目となる当年度は次のとおりの業務を行った。</p> <p>(1)令和4年度より2年間に亘って全館を休館して行う大規模改修については、これまでの施設管理運営で培ってきた知識と経験を生かしながら、施設設置者と改修内容に関する打合せのほか、臨時事務所や備品保管のための物件の選定、手続き等、運営に関する準備を進めた。改修工事開始後も、設置者、施工業者等との連携を強め改修工事がより良い内容となるよう努めた。</p> <p>(2)令和4年6月からは臨時事務所において、令和3年度までの施設利用者の支払いや、取消等による還付手続きを行った。また、改修による設備変更等に伴う附帯設備料金等の見直しをはじめとした運営面の改善等について設置者と協議していく等、リニューアルオープンに向けた準備を進めた。</p> <p>(3)地域の音楽振興を目的としたアウトリーチ公演、シリーズ企画の継続等、休館中も市民に芸術鑑賞の機会を提供できるよう努めた。</p> |                  |    |                     |        |        |               |
| <p>収益事業を含む</p>   |                  |    |                     |        |        |               |

(3) せんだいメディアテーク管理運営事業

|  |                                 |    |         |         |         |                   |
|--|---------------------------------|----|---------|---------|---------|-------------------|
| 115  | せんだいメディアテーク 管理運営                | 通年 | メディアテーク | 575,719 | 575,719 | 市指定管理料<br>575,719 |
| <p>人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化等を中心とする芸術文化活動の拠点として、施設・設備の適切な管理運営に努めた。メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行った。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行ったほか、展示や上映のための施設の提供を行った。事業としては協働事業を引き続き発展させ、市民参加型事業を積極的に進めた。また、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組んだ。</p> <p>5年間の指定管理初年度となる当年度、全館において照明等の改修工事を実施したが、全館休館時には、市民サービスの提供を継続するため、施設受付や図書館、映像音響ライブラリーの臨時窓口を開設するなど施設全体で連携をもって対応した。なお再開時には、より良い利用が提案できるよう関係各所との調整に努めた。</p> |                                 |    |         |         |         |                   |
| <p>年間利用者:<br/>89,288人</p> <p>収益事業を含む</p>   |                                 |    |         |         |         |                   |
| 116  | せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業 | 通年 | メディアテーク | 6,531   | 6,531   | 市指定管理料 6,531      |
| <p>映像音響ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供した。また、せんだいメディアテークの事業及び「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像を含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、「smtコレクション」として公開し、映像音響ライブラリーを通じて提供した。また、映像文化推進に向けた上映会を2回実施した。</p>   |                                 |    |         |         |         |                   |
| <p>配架数:<br/>290点(うち、AV267点、BF23点)<br/>smtコレクション:<br/>39タイトル<br/>上映会入場者:<br/>275人</p>   |                                 |    |         |         |         |                   |

## 1. 基本方針1 資料の収集と活用

歴史や伝統、多様な文化芸術に関する資料収集・調査研究とその成果の活用により、市民の暮らしに息づく文化の保存・伝承および総合的な文化の振興を図り、市民の主体的な学びの支援とまちの魅力向上に活かします。

- ① 資料の収集・保管及び調査研究
- ② 調査成果に係る情報発信と成果を活用した事業の展開

### 令和4(2022)年度 事業の概要

仙台の文化・歴史を形づくる資料の収集・保管に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）に対する適切な感染予防対策を行いながら、施設ごとに特色ある展示事業を実施し、関連事業等とあわせて様々な方向から興味関心をもっていただけるように努めました。

また、各施設における調査研究の成果を、展示だけではなく、書籍や刊行物、講座等、多様な手法を用いて積極的に発信しました。

#### (1) 資料の収集・保管及び調査研究

- ア 仙台市歴史民俗資料館[2, 349]（市指定管理料／No. 73-74）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館[1, 471]（市指定管理料／No. 83-87）
- ウ 仙台市縄文の森広場[2, 137]（市指定管理料・自主財源／No. 18, 99-103）
- エ 仙台文学館[2, 027]（市指定管理料／No. 112）
- オ せんだいメディアテーク[599, 562]（市受託料・市補助金・市指定管理料・助成金・自主財源／No. 20, 50, 62, 115-116）

#### (2) 調査成果に係る情報発信と成果を活用した事業の展開

- ア 仙台市歴史民俗資料館 企画展等[2, 687]（市指定管理料／No. 66-69, 71）
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 企画展等[13, 897]（市指定管理料／No. 76-80）
- ウ 仙台市縄文の森広場 企画展等[15, 559]（市指定管理料／No. 89-90）
- エ 仙台文学館 企画展等[11, 441]（市指定管理料／No. 105-111）
- オ せんだいメディアテーク 企画展等[ - ]（市補助金・市受託料・助成金・入場料・自主財源／No. 19, 50の一部, 61）

### 主な展示事業

#### No. 69 仙台市歴史民俗資料館企画展「人力車から地下鉄へ～新しい時代の乗り物～」(11月26日～4月16日)

東北新幹線開業40周年、仙台市地下鉄開業35周年を契機とし、鉄道をはじめとする様々な交通用具や関連資料の展示を通じて、交通の発達とともに変化してきた仙台のまちの風景を紹介した。（観覧者数：7, 231人[3月31日時点]）

#### No. 77 地底の森ミュージアム企画展「仙台の遺跡めぐり 再発見！富沢遺跡」(4月22日～7月18日)

100回目の企画展を記念し、富沢遺跡の近年の発掘調査の成果を振り返るとともに、仙台市内の遺跡の紹介を通じて、身近な地域の歴史や文化財を改めて広く発信した。（観覧者数：9, 784人）

#### No. 108 仙台文学館特別展「山内ジョージ 文字絵の世界」(10月1日～12月11日)

宮城県出身の漫画家・イラストレーター山内ジョージの展覧会。「動物文字絵」の原画のほか、「河北新報」に掲載された中学時代の4コママンガ、「トキワ荘」時代の資料等を通じて、ユーモアあふれる作品世界を展望した。（観覧者数：4, 314人）

#### No. 61 せんだいメディアテーク展覧会事業「定禅寺パターゴルフ???倶楽部!!」(1月11日～2月5日)

2組のアーティスト（コンタクトゴンゾ、ドットアーキテクト）による参加型展覧会。独自のルールとアイデアに基づいて設計された「パター・ゴルフ場型」展覧会場には、障害の有無や年齢の隔てなく参加できる「コミュニケーションの場」として、大勢の親子連れをはじめ多様な人々が集った。（入場者数：7, 524人、関連企画参加者：142人）

## 調査成果の情報発信

No. 18 仙台市縄文の森広場 国際ミニシンポジウム「3D技術と文化財、博物館」

No. 19 せんだいメディアテーク 開館20周年記念誌『つくる〈公共〉50のコンセプト』発行

## 2. 基本方針2 市民の文化活動への支援

市民が行う自主的な学びと安全で安心な活動の場を提供し、さまざまな文化活動の支援や情報発信に努めることで、多彩な学びの機会にあふれる環境やライフステージに関わらず誰もが心豊かな市民生活を送り、地域が活性化することをめざします。

- ① 文化施設の管理運営・魅力向上
- ② 市民活動や学びの場の提供と支援・助成・協力
- ③ 鑑賞機会の提供

### 令和4(2022)年度 事業の概要

令和4年4月から2年間にわたり大規模改修工事を行う泉文化創造センター、令和4年8月から翌年3月まで改修工事を行ったせんだいメディアテークでは、設置者・施工業者と連携し、工事が適切に行われるよう努めるとともに、これ以外の施設についても、良好な施設の維持管理に努めました。

また、新型コロナの影響を強く受けた文化芸術関係者や市民の文化活動を支援するための助成事業や、施設の貸出等を通じて、多角的な文化活動への支援を行いました。

鑑賞事業では、3年振りの開催となった「宝塚歌劇公演」をはじめとする演劇・音楽公演事業を実施するほか、ミュージアム施設でも鑑賞機会を創出するためのさまざまな事業を展開しました。

#### (1) 文化施設の管理運営・魅力向上

- ア 仙台市青年文化センター 管理運営・活性化事業[365, 135] (市指定管理料・自主財源等/No. 9, 113)
- イ 仙台市泉文化創造センター 管理運営・活性化事業[99, 846] (市指定管理料・自主財源・協賛金/No. 10, 114)
- ウ 仙台市歴史民俗資料館 管理運営[61, 271] (市指定管理料/No. 65)
- エ 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営[96, 685] (市指定管理料/No. 75)
- オ 仙台市縄文の森広場 管理運営[48, 303] (市指定管理料/No. 88)
- カ 仙台文学館 管理運営[182, 371] (市指定管理料/No. 104)
- キ せんだい演劇工房10-BOX・能-BOX 管理運営[23, 862] (市補助金・使用料等/No. 47) \*基本方針4にも該当
- ク せんだいメディアテーク 管理運営・ホスピタリティ向上事業[576, 015] (市指定管理料・自主財源/No. 21, 115)
- ケ せんだい3.11メモリアル交流館 運営[58, 590] (市受託料/No. 48) \*基本方針5にも該当

#### (2) 市民活動や学びの場の提供と支援・助成・協力

- ア 仙台市青年文化センター 管理運営[364, 581] (市指定管理料/No. 113)
- イ 仙台市泉文化創造センター 管理運営[97, 261] (市指定管理料/No. 114)
- ウ せんだい演劇工房10-BOX・能-BOX 管理運営[23, 862] (市補助金・使用料等/No. 47) \*基本方針4にも該当
- エ せんだいメディアテーク 管理運営・生涯学習支援事業[584, 555] (市指定管理料/No. 62, 115, 116)
- オ 支援・助成・協力事業[58, 175] (市補助金/No. 1-3)

#### (3) 鑑賞機会の提供

- ア 宝塚歌劇全国ツアー一宮城公演[44, 078] (自主財源・入場料・協賛金等/No. 4)
- イ 舞台芸術振興課鑑賞事業[ - ] (市負担金・助成金・入場料・自主財源/No. 8の一部) \*基本方針4にも該当
- ウ 仙台市青年文化センター 活性化事業<パフォーマンスフェスティバル>[ - ] (自主財源等/No. 9の一部) \*基本方針4にも該当
- エ 仙台市泉文化創造センター 活性化事業<ロビーイベント・イズミノオト>[2, 585] (自主財源・入場料等/No. 10) \*基本方針4にも該当
- オ 仙台市歴史民俗資料館 活性化事業<れきみん秋まつり等>[785] (自主財源・助成金/No. 11-12)
- カ 仙台市富沢遺跡保存館 活性化事業<ミュージアム・シアター“狩人登場!”>[1, 658] (自主財源/No. 15)
- キ 仙台市縄文の森広場 普及啓発事業<縄文まつり>[605] (市指定管理料/No. 91)

- ク 仙台文学館 普及啓発事業[447] (市補助金/No. 51-52)
- ケ せんだいメディアテーク 経常事業[ - ] (市補助金・助成金/No. 62-63の一部) \*基本方針5にも該当
- コ 共催事業[1, 078] (自主財源/No. 7)
- サ 広報事業[4, 486] (市補助金/No. 36)
- シ 「市民文化事業団友の会」事業[2, 129] (自主財源/No. 37)

### 施設の改修・再整備

#### No. 114 仙台市泉文化創造センター

長寿命化のための大規模改修 (令和4年4月～令和6年3月予定)

#### No. 115 せんだいメディアテーク

照明及び空調設備の改修 (令和4年8月～令和5年3月)

#### No. 47 せんだい演劇工房10-BOX

別棟にあった稽古場、資料室を新設棟に再整備 (令和4年8月～令和5年3月)

### 新型コロナウイルス感染症に関する文化芸術関係者等に対する支援事業

#### No. 1 持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業/文化芸術の創造・発信・普及助成事業

長期化する新型コロナの影響を受け、地域の文化芸術関係者の支援を目的に2種類の助成事業を実施した。(採択件数: 72件)

### 主な鑑賞事業

#### No. 4 宝塚歌劇全国ツアー宮城公演 (10月28～30日)

これまで会場としてきた泉文化創造センターの休館に伴い、公益財団法人名取市文化振興財団との共催で、名取市文化会館を会場に実施した。新型コロナの影響により令和2、3年度は開催見送り、3年ぶりの開催となった。(入場者: 7, 235人)

#### No. 8 大前光市コンテンポラリーダンス公演 (1月27～28日)

豊かな表現力と感性を持つ義足のダンサー・大前光市と仙台在住の若手サクスペリヤー・熊谷駿の共演により公演を開催した。(入場者: 182人)

## 3. 基本方針3 さまざまな人材の育成

文化活動に関わる人材のすそ野を広げ、子どもたちをはじめとする次世代や新たな担い手の育成に努めるとともに、地域の歴史や伝統、民俗芸能の継承を支援し、地域への誇りや愛着を深め、鑑賞者の育成にも務めるなど、文化に関わる市民力の向上をめざします。

- ① 講座・ワークショップの開催
- ② ボランティア、サポーターの活動機会の充実

### 令和4(2022)年度 事業の概要

さまざまな世代や障がいの有無に関わらず参加できるワークショップ、舞台芸術・音楽分野の人材育成プログラム等による創造的な体験の機会提供を通じ、文化芸術に関わる人材のすそ野を広げるとともに、次代の文化の担い手の育成を図りました。

第8回仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバル等の大規模な事業運営や、ミュージアム施設の運営にあたっては、ボランティアとの協働を積極的に行い、それぞれのライフステージに合わせ、誰もがいきいきと活動できる場の創出に努めました。

#### (1) 講座・ワークショップの開催

- ア 舞台芸術振興課人材養成事業[ - ] (市負担金・受講料・自主財源等/No. 8の一部) \*基本方針4, 5にも該当
- イ せんだい演劇工房10-BOX 舞台芸術人材育成事業[6, 900] (市補助金・助成金・受講料・自主財源等/No. 24, 26)  
\*基本方針4にも該当
- ウ 能-BOX 古典芸能人材育成事業[751] (市補助金・受講料/No. 28) \*基本方針4にも該当
- エ 芸術家派遣事業 (実行委員会参画/No. 33)
- オ 東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト[435] (自主財源/No. 34) \*基本方針4にも該当

- カ 仙台ジュニアオーケストラ運営事業[26, 572] (市負担金・受講料等/No. 46) \*基本方針4にも該当
- キ 仙台文学館 文学講座・講演会・学芸員出前講座等[1, 829] (市補助金・受講料/No. 53-55)
- ク 仙台市歴史民俗資料館 講座・体験イベント等[ - ] (市指定管理料/No. 70の一部, 72)
- ケ 仙台市富沢遺跡保存館 講座・体験イベント等[1, 889] (市指定管理料・自主財源/No. 13, 16, 81)
- コ 仙台市縄文の森広場 講座・体験イベント等[1, 691] (市指定管理料/No. 92, 93)

## (2) ボランティア、サポーターの活動機会の充実

- ア 仙台国際音楽コンクール・仙台クラシックフェスティバル/ボランティア事業 [3, 043] (市負担金等/No. 43) \*基本方針4にも該当
- イ 仙台文学館 友の会支援事業 (No. 58)
- ウ 仙台市歴史民俗資料館 サポーター養成事業[ - ] (市指定管理料/No. 70の一部)
- エ 仙台市富沢遺跡保存館 ボランティア事業[ - ] (市指定管理料/No. 81の一部)
- オ 仙台市縄文の森広場 ボランティア事業[16] (市指定管理料/No. 94, 101)

### 主な講座・ワークショップ

#### No. 53 仙台文学館「佐伯一麦エッセイ講座」「仙台文学館ゼミナール」(通年)

館長の作家・佐伯一麦によるエッセイの鑑賞と実作指導の講座のほか、古典・近代・現代文学や表現に関する連続ゼミナールを多数開催し、文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった多様な市民の学びのニーズに応えた。(講座：150人、ゼミナール1, 933人)

#### No. 24 舞台スタッフ・ラボ(通年)

オープン講座では、高校・大学を中心とした若い世代の表現活動に関する現状・課題・展望をゲストとともに話し合った。本講座では、舞台監督、照明、音響の基礎を学ぶ基礎コースと、演劇公演で実際にスタッフワークを体験する発展コースを開催し、その成果として宮城野区文化センターとの共催により、ミュージカル『しょうじきなきこり～落としたものは なぁに?』を上演した。(オープン講座参加者：13人、本講座受講者：26人、公演受講者：8人、公演入場者：188人)

### 主なボランティア事業

#### No. 43 仙台国際音楽コンクールボランティア事業

5月から6月にかけて開催した第8回コンクールにおいて、会場運営サポートや広報活動サポート等を担うボランティア活動を行った。(登録者数：251名)

## 4. 基本方針4 [楽都][劇都]の成長促進

たくさんの方が集う劇場等を文化の継承・創造・発信の場として活用することで、「楽都」や「劇都」として、市民が参加し、育んできた文化をさらに成長させ、仙台の魅力として国内外に発信していきます。

- ① 劇場・音楽堂の活性化
- ② 音楽の振興と創造・発信型事業の推進
- ③ 舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進

### 令和4(2022)年度 事業の概要

楽都事業では、新型コロナウイルス感染症への対策を十分に講じたうえで、3年ごとの開催となる第8回仙台国際音楽コンクールを5月から6月にかけて開催しました。また、秋には仙台クラシックフェスティバルを開催し、「楽都仙台」の国内外の発信に努めました。

また、劇都事業では、仙台短編戯曲賞の第8回大賞の選出を行ったほか、仙台・劇のまちトライアルシアターでは、子育て世代や普段演劇等の実演芸術に触れる機会が少ない地域に向けた鑑賞事業を実施し、「劇都仙台」の振興を図りました。

### (1) 劇場・音楽堂の活性化

- ア 劇場・音楽堂等機能強化推進事業[36, 292] (市負担金・助成金・入場料・自主財源/No. 8)
- イ 仙台市泉文化創造センター 活性化事業<ロビーイベント・イズミノオト> [2, 585]  
(助成金・入場料・自主財源等/No. 10)

### (2) 音楽の振興と創造・発信型事業の推進

- ア 仙台国際音楽コンクール運営事業[316, 267] (市負担金・入場料・協賛金等/No. 39-45)
- イ 仙台クラシックフェスティバル[68, 279] (市負担金・協賛金・入場料・自主財源等/No. 5)
- ウ 仙台ジュニアオーケストラ運営事業[26, 572] (市負担金・受講料等/No. 46) \*基本方針3にも該当
- エ 市制施行記念コンサート[4, 386] (市受託料/No. 49)
- オ 地下鉄駅コンサート[1, 004] (市負担金/No. 31)

### (3) 舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進

- ア 市民能楽講座[3, 652] (市負担金・入場料/No. 23)
- イ 舞台芸術人材育成・地域連携事業[7, 100] (市補助金・助成金・受講料・自主財源等/No. 24, 26, 29)
- ウ せんだい演劇工房10-BOX 鑑賞プログラム[4, 768] (市補助金・自主財源・入場料等/No. 25)
- エ せんだい短編戯曲賞[1, 668] (市補助金/No. 27)
- オ 能-BOX事業[751] (市補助金・受講料/No. 28)

## 劇場・音楽堂の活性化

### No. 8, 9 第2回 日立システムズホール仙台 パフォーマンスフェスティバル

全館を使って朗読劇、パフォーマンス、展示企画、公募によるステージ等幅広いプログラムを実施し、施設の利用者をはじめ、仙台にゆかりのある文化芸術団体や市民が数多く集った。(入場者数：1,847人)

### 主な楽都仙台事業

#### No. 39-45 第8回仙台国際音楽コンクール

ヴァイオリン部門を5月21日から6月5日に、ピアノ部門を6月11日から6月26日に開催した。41の国と地域から573名の申込があり、動画データ等による予備審査を通過したヴァイオリン部門37名、ピアノ部門31名が参加した。(入場者数：のべ7,639人)

### 主な劇都仙台事業

#### No. 25 10-BOX鑑賞プログラム「仙台・劇のまちトライアルシアター」

舞台芸術の可能性を広げることを目指し、子育て中の舞台関係者を中心に創作を行った「子育てあるある劇場」の出前公演のほか、「にっかわ文化祭」では、作並小学校新川分校跡施設を会場に、地域の方々と連携しながら大人から子どもまで楽しめる幅広いプログラムを実施した。(入場者数：356人)

## 5. 基本方針5 地域文化資源の活用

多様な分野や担い手との連携や交流を進め、地域や文化資源の新たな魅力発掘に努めるとともに、他者への理解を促進し、地域で育まれてきた文化の土壌を発展させることで、文化の力を地域の活性化や課題解決に活かします。

- ① 地域共生社会を見据えた事業
- ② 震災・復興に文化を通して向き合う事業
- ③ 地域・社会の課題を見据えた文化事業
- ④ 新たな地域文化創造にむけた事業

## 令和4(2022)年度 事業の概要

各施設が地域コミュニティと積極的に連携し、魅力あるまちづくりに向けた取り組みに積極的に参画するとともに、事業実施にあたっては、地域や社会の課題を意識しながら、地域の文化資源を生かした事業推進に取り組みました。

また、せんだい3.11メモリアル交流館や、せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の事業運営を通じて、震災・復興に文化を通して向き合う事業にも引き続き取り組みました。

### (1) 地域共生社会を見据えた事業

- ア 仙台市青年文化センター 地域連携事業[ - ] (自主財源/No. 9の一部)
- イ 仙台市富沢遺跡保存館 地域交流促進事業[184] (自主財源/No. 14)
- ウ 仙台市富沢遺跡保存館 学校・地域連携促進事業[68] (自主財源/No. 17)
- エ 仙台市富沢遺跡保存館・仙台市縄文の森広場 利用者や地域との運営懇談会[1] (市指定管理料/No. 82, 97)
- オ 仙台市縄文の森広場 野外展示「縄文の森」の多目的活用[56] (市指定管理料/No. 98)
- カ せんだいメディアテーク smtホスピタリティ向上事業[296] (自主財源/No. 21)

### (2) 震災・復興に文化を通して向き合う事業

- ア せんだい3.11メモリアル交流館運営・各種事業[58, 590] (市受託料・受講料/No. 48)
- イ せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営事業[14, 606] (市受託料/No. 50)

### (3) 地域・社会の課題を見据えた文化事業

- ア 持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業[ - ] (市補助金/No. 1の一部) \*基本方針2にも該当
- イ もりのみやこのふれあいコンサート[3, 616] (市補助金/No. 6)
- ウ 舞台芸術人材養成事業[ - ] (市負担金・助成金・受講料等・自主財源/No. 8の一部)
- エ せんだいメディアテーク バリアフリー・デザイン事業[ - ] (市補助金/No. 63の一部)

### (4) 新たな地域文化創造にむけた事業

- ア せんだい・アート・ノード・プロジェクト[19, 748] (市補助金/No. 60)
- イ 仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局業務[ - ] (市指定管理料/No. 115の一部)

#### No. 48 「せんだい3.11メモリアル交流館運営・各種事業」

地震・津波といった自然現象やそれが引き起こす災害を科学的な視点から紹介する企画展「私がここで暮らしていくための科学～『黒い壁』の正体」をはじめとする年5回の企画展のほか、地域の活動団体と連携して企画・実施する子ども向け体験プログラム「夏色ドロップス」等、東部沿岸地域への発着点及び地域コミュニティの拠点として様々な来訪者が訪れ集う場として親しまれる運営に努めた。(年間来場者：42,747人)

#### No. 1 持続可能な未来へ向けた文化芸術の環境形成助成事業 ※再掲

次代を見据え、地域における文化芸術の創造力や発信力を高め、まちづくりや人々の暮らしの課題解決に寄与するため、高い独自性、公益性、波及力を持つ事業を公募し、助成した。(採択：17件)

#### No. 60 せんだい・アート・ノード・プロジェクト(通年)

津波で被災した仙台市沿岸部の貞山運河沿いで同地域で活動する人々とともに取り組むプロジェクト「川俣正/仙台インプログレス」では、仙台市宮城野区岡田・新浜にて仮設の船橋である作品《みんなの橋(テンポラリー)》を制作したほか、コロナ禍などの影響を受けている仙台市中心商店街における文化面での交流を促すプロジェクト「ARCADE」を新たに立ち上げるなど、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信した。(総参加者：77,978人)

## 6. 法人の基盤強化と職員の能力開発

- (1) 運営基盤の安定化
- (2) 組織の強化
- (3) 安全・安心の確保
- (4) 情報発信の強化
- (5) 職員の専門性と能力の開発
- (6) 市民協働の推進

### 令和4(2022)年度の取り組み

- (1) クラウドファンディングも含めた新たな寄附制度の仕組みの検討と導入
- (2) 風通しのいい職場づくりのため、具体的な取り組みの検討と着手
- (3) 令和3年度に策定したBCP（事業継続計画）の浸透
- (4) ウェブサイトの更新と、多様な手段を用いた広報展開
- (5) 研修メニューの充実と回数増、職員の能力開発への支援
- (6) 既存の市民協働事業の活動拡大、新たなネットワークの構築

#### **産業医の導入**

新たに産業医を通年で委託し、心身の不調を抱える職員への定期的な面談や、健康診断結果や就労状況に対して医学的な見地から助言・指導が受けられる体制を整備し、職員が安心して働くことのできる環境づくりに取り組んだ。

#### **自主研修援助制度の導入**

職員が自ら自己啓発に取り組み、様々な知識や技能等を取得することを通じて、職場の業務でもその能力を活かすことができるよう、職場研修の実施や自主的研究グループ活動、公的資格の取得等を支援する制度を新たに設けた。

#### **ウェブサイトの更新と、多様な手段を用いた広報展開**

これまで紙媒体で発行してきた文化情報誌『季刊まちりょく』を全面ウェブ化したほか、各施設・課ではTwitterやInstagram等のSNSや、Youtube等の動画共有プラットフォームを活用し、情報発信力の強化に努めた。